鷺山仙道遺跡Ⅱ

一岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線建設に伴う緊急発掘調査一

2005

岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合 (財)岐阜市教育文化振興事業団



調査区から鷺山を望む



調査区から福光・金華山を望む

例

- 1. 本書は、鶯山仙道遺跡に所在する埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2. 調査は、岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における都市計画道路太平町下西郷線建設に伴う 緊急調査として、業務委託契約に基づき、委託者・岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合の調査経 費負担により、受託者㈱岐阜市教育文化振興事業団が実施した。本調査は、平成11年度から12年度 に行った調査の継続事業であることから、本文ではできる限り重複を避け、データの補充という形 で執筆した。詳細については、平成14年度発行『鷽山仙道遺跡』を参照していただきたい。
- 3.調査期間は下記の通りである。

平成16年5月28日~平成16年9月17日 発掘作業

整理·報告作業 平成16年9月20日~平成17年3月11日

4. 調査組織は下記の通りである。

調查主体者 侧岐阜市教育文化振興事業団理事長 佐藤俊正

(財)岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調查事務所長 西村覺良

調查担当者 高木 晃 (鮒岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所)

事務担当者 吉田陽子(腓岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所)

調査補助員 倉持和美・沢田伊一郎・高木優子・棚橋英子

作業員 加藤定男・清水寿子・鷲見竜雄・長井和美・長谷秀市・伏見信孝・牧野利治・

増田敬子・松浦正雄・渡辺重子

- 調査の進行及び本書の作成は、内堀信雄(岐阜市教育委員会社会教育室)、井川祥子(側岐阜市教 育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所)の指導と協力のもと、高木が行った。また調査に関する 事務処理および調査経費の執行は、高木と吉田が行った。
- 6. 本書の執筆は第1章から第5章までは高木が行い、第6章については冒頭に記名した。また、全 体の編集は高木が行った。
- 7. 遺構・遺物の自然科学分析は㈱パレオ・ラボに委託した。
- 8. 調査区の写真測量は(株)イビソクに委託した。
- 9. 遺物の写真撮影は佐藤右文氏に依頼した。

須恵器

10. 出土遺物については下記の各氏に御教示を頂いた。

渡辺博人 (各務原市教育委員会木曽川学研究所)

山茶碗・中世陶器・近世陶磁器 藤澤良祐 (愛知学院大学)

11. 発掘調査、現地公開及び報告書作成の過程で下記の機関にご協力を賜わった。深く感謝する次第 である。

岐阜市教育委員会・岐阜市まちづくり推進部区画整理室・鷺山自治会連合会

12. 調査記録及び出土遺物は(助岐阜市教育文化振興事業団が管理している。

凡例

遗構

- 1. 図中の方位は真北を示し、座標は国家座標第W座標系に準拠した。
- 2. 遺構実測図の縮尺は1/40、1/50、1/100である。
- 遺構の略号は下記の通り用いた。
 井戸-SE、溝-SD、土坑-SK、柱穴・小穴・ピット-P、その他-SX
- 4. 遺構番号は、原則として発掘調査時の番号を用いた。

遺物

- 1. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本とし、一部木製品は1/6もしくは1/8、一部石製品は1/2もしくは1/ 6、一部金属製品は2/3である。
- 2. かわらけの実測図中、外面の横ナデ調整の範囲は実線で記し、断面図のみのものは引き出し線で 範囲を示した。
- 3. 遺物実測図中の一点鎖線は施釉範囲を示す。アミかけについてはキャプションの通りである。か わらけの墨を塗った部分はタール痕である。
- 4. 第4~6表の集計値は接合後の破片数である。
- 5. 第7~9表中法量欄の口径は復元値を含む。また()は復元値である。完形のかわらけの口径、 器高は最大値と最小値の平均で求めた。

目 次

第1章 遺跡の立地と環境	
第1節 遺跡の立地	1
第2節 周辺の遺跡	1
第2章 発掘調査の経過	
第1節 発掘調査に至る経緯	3
第2節 発掘調査の経過	3
第3章 遺跡の概要	
第1節 層位	5
第2節 遺構・遺物の概要	7
第4章 遺構と遺物	
第1節 2期の遺構と遺物	8
第2節 3期の遺構と遺物	9
第3節 4-1期の遺構と遺物	13
第4節 4-2期の遺構と遺物	22
第5節 5期の遺構と遺物	22
第6節 その他の遺構と遺物	23
第5章 まとめ	37
第6章 自然科学分析	
第1節 SE 5 出土桶部材の樹種同定	40
第2節 花粉化石群集	41
第3節 金属用容器類付着物の成分分析	42

挿図目次

第1図	周辺遺跡分布図 2	第9図 SK37、56実測図 14
第2図	調査区地区割り図 4	第10図 SK37実測図 15
第3図	土層模式図 6	第11図 SK38、41、42、59、60、61、64
第4図	SD65、68実測図8	実測図17
第5図	SD70、SX32、33実測図 9	第12図 SK40、58実測図 19
第6図	SD66、SK67実測図 10	第13図 SK53、54、55、57実測図 21
第7図	SX31, SK62, 65, SD69, 71	第14~18図 遺物実測図(1)~(5) 25~29
	実測図11	第19図 遺構変遷図 38
第8図	SE 5 実測図13	

別 添 図

別添図1 A3、4区全体図

表目次

第1表	工程表4	第10表	土師器皿の分類別破片数 39
第2表	時期区分表 4	第11表	鋳造作業に関連する土師器皿の
第3表	遺構表 30		分類別破片数 39
第4~6	表 遺物集計表(1)~(3) 31~33	第12表	蛍光X線分析による半定量分析
第7~9	表 遺物観察表(1)~(3) 34~36		結果43
		第13表	試料の詳細と付着物の種類 43

写真図版目次

口絵カラー	調査区から鷺山を望む
	調査区から福光・金華山を望す

図版1~3	遺構図版	immin	···· 44~46	
図版 4~7	遺物図版		···· 47~50	
図版8~9	自然科学分	析図版	··· 51~52	

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地

岐阜市の地勢を概観した場合、北部の美濃山地、中~南部の濃尾平野に分けることができる。また 岐阜市を横断するように北東から南西方向に岐阜市中川原付近を扇頂とする緩扇状地が形成された。 この長良川扇状地の北限は、鷺山地区にある独立丘陵の鷺山のほぼ北麓を通る東西線付近で、それよ り北は鳥羽川まで後背湿地状の相対的な低地が広がる。鷺山仙道遺跡はこの扇状地北端から後背湿地 状の低地に立地する。

第2節 周辺の遺跡 (第1図)

鷺山仙道遺跡が位置する岐阜市の中北部域では、平成2~7年度に行われた岐阜市遺跡詳細分布調査により縄文時代から近世までの遺物が散布する遺跡が多く確認された⁽¹⁾。

鷲山仙道遺跡が含まれる鷲山遺跡群においては、平成11年度から土地区画整理事業に伴う発掘調査が行われており、下土居若宮遺跡、下土居北門遺跡、正明寺城之前遺跡、鷺山市場遺跡、鷺山蟬遺跡の調査では、弥生時代から江戸時代までの多くの遺構・遺物が確認されている。また鷺山遺跡群の東方約3kmの位置には、弥生時代から近世までの複合遺跡である城之内遺跡がある。

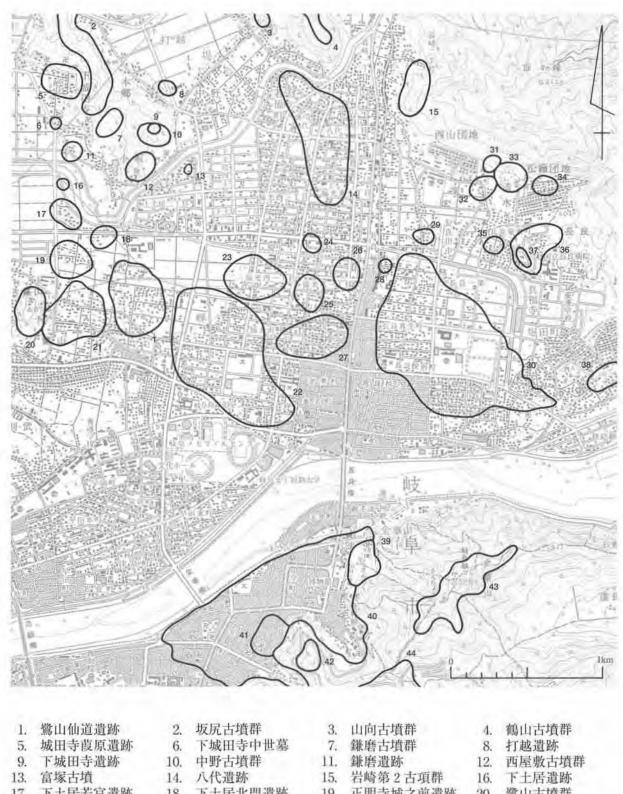
その他の遺跡について詳細は既刊報告書に記載している四。

註

(1)岐阜市教育委員会 1996 『岐阜市遺跡詳細分布調査報告書』

(2)岐阜市鵟山・下土居土地区画整理組合 侧岐阜市教育文化振興事業団 2002

『鷺山仙道遺跡ー岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線建設に伴う緊急発掘調査ー』



下土居北門遺跡 19. 17. 下土居若宫遺跡 18. 正明寺城之前遺跡 20. 鷺山古墳群 21. 鶯山市場遺跡 22. 鷺山蟬遺跡 23. 鷺山治郎丸遺跡 24. 福光東B遺跡 25. 太田遺跡 26. 福光東A遺跡 27. 福光花ノ木町遺跡 28. 長良天神遺跡 29. 西野々遺跡 西山第2古墳群 城之内遺跡 31. 32. 長良福泉遺跡 30. 33. 西山第1古墳群 西山洞古墳群 龍門寺遺跡 34. 35. 36. 龍門寺古墳群 37. 長良窯跡群 38. 雄総第1古墳群 39. 岐阜城千畳敷遺跡 40. 岐阜城下町遺跡 41. 岐阜奉行所跡 42. 北洞古墳群 43. 岐阜城跡 44. 上加納山古墳群

第1図 周辺遺跡分布図 (国土地理院発行1:25,000 地形図(岐阜北部)使用)

第2章 発掘調査の経過

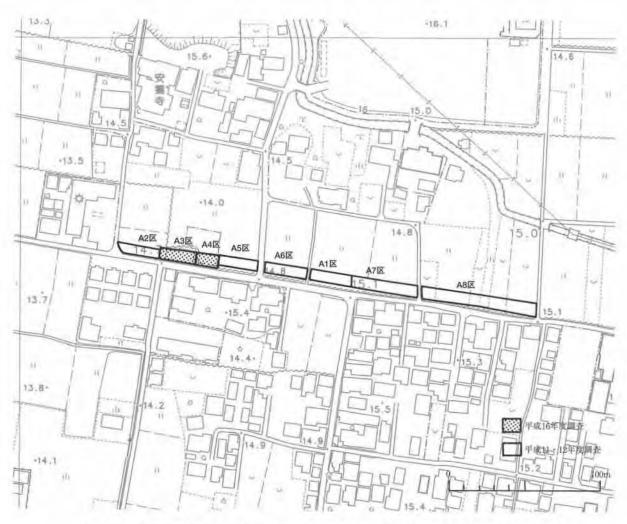
第1節 発掘調査に至る経緯

太平町下西郷線建設に伴う発掘調査に至る経緯(埋蔵文化財の取り扱いについての照会や試掘調査の実施など)、岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合との協定締結の経緯については既刊報告書を参照していただきたい。

発掘調査を行うにあたり、平成11年10月22日付けで岐阜市燃山・下土居土地区画整理組合理事長から文化庁長官あてに文化財保護法第57条の2の規定による工事の届出がなされた。これに対し、平成11年11月4日付で岐阜県教育委員会教育長から区画整理組合理事長あてに工事着手前の発掘調査実施の指示があった。これを受けて、今回の調査については、平成16年5月28日に岐阜市鷲山・下土居土地区画整理組合と業務委託契約を締結し、業務に着手した。また、平成16年5月31日付で励岐阜市教育文化振興事業団理事長から岐阜県教育委員会教育長あてに文化財保護法第57条の規定による発掘調査の届出がなされ、平成16年6月2日付けで岐阜県教育委員会教育長から励岐阜市教育文化振興事業団理事長あてに発掘調査を慎重に実施する旨の指示があった。

第2節 発掘調査の経過 (第2図、第1表)

発掘調査については平成16年5月28日に着手し、準備作業を行った。調査区の名称は、便宜的に調査前に家屋があった部分をA3区、公園であった部分をA4区とした。平成12年度の調査で、A3区の西側に位置するA2区で遺構検出面を2面確認したことから、本調査でも同様の成果が得られると予想していた。6月15~17日に重機による表土掘削を行った後に人力作業に移り、サブトレンチにおいてA3区に遺構検出面が2面あることを確認した。A3区上層遺構検出面で戦国時代の鋳造作業に関連すると考えられる遺構や遺物、A4区で戦国時代の桶積み井戸などを確認し、8月9日に空中写真測量を行った。その後上層遺構面の確認作業を行い、8月25日に重機で下層遺構検出面まで掘り下げた。下層遺構検出面では鎌倉時代までの土坑、溝、不明遺構などを確認し、9月17日で発掘作業を終了した。整理作業について、遺物の洗浄は雨天等を利用し発掘作業と並行して行い、注記や接合、遺物の実測などのその他の作業は、発掘作業終了後に開始した。平成17年3月11日に調査工程が全て終了した。



第2図 調査区地区割り図 この図は、核単市の承認を得て、核単市作成の地図(平成11年度満量)を複製したものである。 平成16年12月7日 承認番号第31号

平成16年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備作業		-										- 1
発掘作業			14 E M		9 25	17 MI						
整理作業				10		Day.	LEGIS	0	100			
刊行作業									1000			11

第1表 工程表

時期		城之内遺跡 時期区分	考古学フォーラム編年
1期	松河戸Ⅱ式併行~古墳時代後期	10~12期	V·VI期
2期	古代 (7世紀後半~9世紀前葉)	13~14期	
3期	中世前期(南部系山茶碗4~7型式)	17~18期	
4-1期	戦国時代(第Ⅲ層形成以前)	an Hd	
4-2期	戦国時代 (第Ⅲ層形成以後)	20期	
5期	近世以降		

第2表 時期区分表

第3章 遺跡の概要

第1節 層位(第3図)

以下に記す層位は、一部を除いて各調査区の北壁で確認したものである。

1①層 (表土層):現代の家屋の造成土。A3区で確認した。

12層 (表土層):現代の公園の造成土。A4区で確認した。

13層(表土層):現代の田の耕作土で、床土も本層に含む。

14層(表土層):現代の畑の耕作土。A8区中央部で確認した。

Ⅱ層:基本的にシルト層である。古墳時代から近世までの遺物を含む層である。

■層 (焼土・炭密集層): A3区西部、A8区中央部で確認した。茶褐色シルト質土に焼土と炭が大量に混じる。A3区西部の遺構 (SK37、38、42など) 埋土には焼土・炭が含まれるが、これは遺構が埋まる最終段階に第Ⅲ層が形成されたか、もしくは遺構があった場所に凹凸ができ、そこに第Ⅲ層が形成されたと考えられる。本層上面から遺構が掘り込まれる可能性も考えられる。

Ⅳ①層:茶褐色シルトで、硬く締まる。本層の上面が上層遺構の検出面である。

IV②層:A2区では淡灰黄褐色砂質土で硬く締まる。A3区では茶~褐色シルトである。本層の上面が上層遺構の検出面である。

以下に記すV層は地山で、V①~⑫、⑯層の上面は下層遺構の検出面である。

V①層: 黄褐色シルト。A8区中央部で確認した。さらに西と東に範囲が広がると考えられる。

V②層: A 7 区中央部以東で確認した層で、各遺構は本層の上面で確認した。西部は青灰色砂質土、東方は茶褐色砂質土で部分的に茶褐色砂質シルトが混じる。

V③層:黄褐色シルトで硬く締まる。A7区西部で確認した。

V ④ 層: 茶褐色シルトで、東に行くほど砂質が強くなる。A7区で確認した。

V ⑤層:暗黄灰色砂質シルト。A1区で確認した。

V ⑥ 層:黄色粘質土。A1、A7区で確認し、V ⑥ 層と土質が似る。

V⑦層:A4区では灰色シルト、A5区では黄褐色シルト。

V ⑧層: A 4 区では灰黄色砂質土、A 5 区では茶色砂質土。

V 9 層: 黄灰色シルト。A 4 区で確認した。

V⑩層: 黄色粘質土。A3、4区で確認した。V⑯層と同一層か?

V印層: 茶褐色砂質シルト。A3区で確認した。

V①層:淡灰色シルト。A2区で確認した。

V13層:砂層。A2区の西方で確認した。

V回層: 茶褐色砂質土で、西方では黄橙色になる。A2区東部で確認した。

V⑤層:上方は砂質シルト、下方は砂質土。水流により運搬された土砂が堆積したような様相を呈する。部分的な確認となったため、西側の様子は不明である。

V⑥層:黄色粘質土。A5~A8区の広い範囲で確認した層である。V⑨層も同じ層である可能性が高い。本層は旧地形をある程度反映していると考えられる。

VID層: 茶褐色シルト。AI区で確認した。

V 18層: 茶褐色粘質土。A1区で確認した。

V19層:砂礫層。A2区西部でのみ確認した。

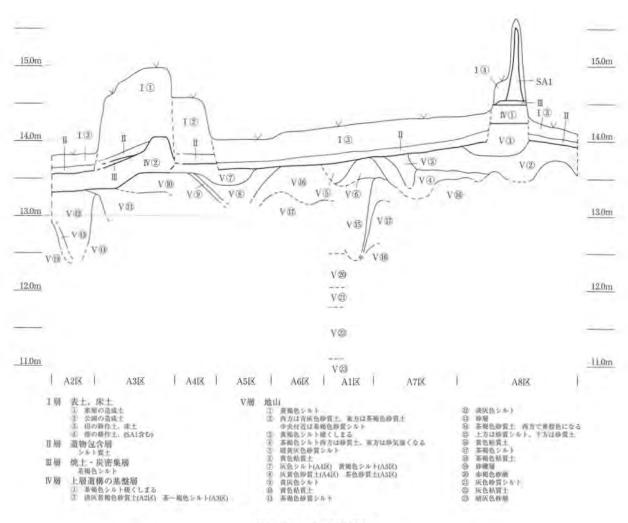
V20層:赤褐色砂層。A1区SE1の掘削の際に確認した。

V20層:灰色砂質シルト。V20層と同様、A1区SE1の掘削の際に確認した。

V22層:灰色粘質土。V20、20層と同様、A1区SE1の掘削の際に確認した。

V②層:暗灰色砂層。V②、②、②層と同様、A1区SE1の掘削の際に確認した。水溜の桶が据えられていた層であり、当時の湧水層と考えられる。

今回のA4区の調査で戦国時代の井戸を確認し、途中から重機による掘り下げを行った。重機が届く限界の深さ(海抜約10,0m)で最下部の桶が出土し、その板材を抜き取った部分にピンポールを刺したところ、礫層のような感触があった。V(9)、②層に関連すると思われるが、A4区付近は谷状の深い落ち込みがあった可能性が高い。



第3図 土層模式図

第2節 遺構・遺物の概要

遺構について、今回の調査では井戸1基、溝11条、土坑35基、不明遺構5基、ピット119基を確認した。本報告では既刊報告書と同様に、記述の便宜上第2表のように時期を区分した。1期については第6回東海考古学フォーラムの成果に、その他については城之内遺跡の時期区分に従った $^{(1)(2)}$ 。また4期の遺構について、基本的には埋土中の焼土・炭の有無で時期を区分し、含まないものを4-1期、含むものを4-2期とした。ただし土坑・ピットの中で、柱や杭の痕跡を確認したものについては、掘り方埋土に焼土・炭を含まないものを4-1期、含むものを4-2期とした。さらにその他の遺構について、埋土の上部にのみ焼土・炭が含まれるものについては、前節で述べたとおり、遺構が埋まる最終段階に第 \square 層が形成されたか、もしくは遺構があった場所に凹凸ができ、そこに第 \square 層が形成されたと考え、4-1期に構築・使用された遺構であると判断した。

前節で述べた層位と遺構の時期の対応関係については、地山上面(V①-②、@屬上面)では3期以前の遺構が、W層上面では4期の遺構が確認できた。4期の遺構の一部は第W 層上面から掘り込まれている可能性も考えられたが、遺構埋土か第W 層かの判断が困難であり確定できなかった。また部分的な確認であるが、W 層上面から5期の遺構が掘り込まれているのを確認した。遺構が多く確認できたのはA3区の上層遺構面で、その中でも4-1期の遺構は特に多かった。また、今回の調査では3期以前の遺物が少なく、1期に比定できる遺構は無いと判断した。

遺物については、前回の調査で出土した物と内容は同じであった。1~3期の遺物は少なく、4期 以降の遺物については、土師器皿が全体の約4割を占めている。分類の内容についてもほぼ同じであ り、各遺物についてすでに分類・編年研究が進んでいるものについてはその成果に従った⁽³⁾。

71

(1)内堀信雄・横幕大祐 1998 「山中・宇田式伴行期の美濃西部域土器編年」「第6回東海考古学フォーラム 土器・幕は語る」
(2)岐阜市教育委員会 1999 『城之内遺跡―長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査ー(第1分冊)」

(3)内堀信雄・横幕大祐 1998 「山中~宇田式併行期の美濃西部域土器編年」『第6回東海考古学フォーラム 土器・墓は語る」

内堀信雄 2000 「宇田型甕から伊勢型甕へ一岐阜市における事例検討ー」「第7回東海考古学フォーラム S字甕を考える」

渡辺博人 1984 「美濃須衛古窯跡群における須恵器編年」 『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』

藤澤良祐 1994 「山茶碗の現状と課題」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター

赤羽一郎・中野晴久 1994 「生産地における編年について」「全国シンポジウム「中世常滑をおって」資料集」

藤澤良祐 1991 「瀬戸古窟址群 II - 古瀬戸後期様式の編年-」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』 X

辦澤良祐 1986 「緬戸大窯発掘調查報告書」「緬戸市歷史民俗資料館研究紀要」V

小野正敏 1982 「15~16世紀の染付碗、皿の分類と年代」「貿易陶磁研究」No. 2

上田秀夫 1982 「14~16世紀の青磁碗の分類について」「貿易陶磁研究」No. 2

上田秀夫 1982 「14~16世紀の白磁の型式分類と編年」「貿易陶磁研究」No. 2

井川祥子 2000 「第8章第3節 岐阜市域の15世紀から17世紀の土師器皿」

『城之内遺跡-長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査-(第2分冊)』

第4章 遺構と遺物

第1節 2期の遺構と遺物

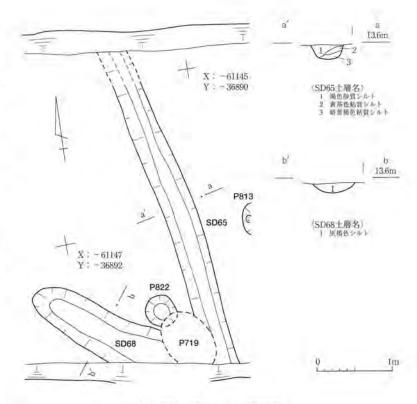
SD65 (第4図、第14図1)

A3区東部、下層遺構検出面 で確認した。ブランの一部は上 層遺構検出面から掘り込まれる P719によって破壊されている。 流路を南北にとり、両端は調査 区外に延びる。断面形は逆台形 を呈する。

1は土師器の屈折脚高杯で、 体部の内外面にはミガキ調整が 施されている。他に7~8世紀 の須恵器が出土していることか ら本期に比定した。

SD71 (第7図、第14図2)

A3区中央部、下層遺構検出 面で確認した。SK65、SX31に



第4図 SD65、68実測図

切られる。流路を南北にとり、南側は調査区外、北側はSX31が徐々に深くなるため検出できなくなる。断面形は緩いV字形を呈する。

2は須恵器の杯類である。

SX32 (第5図)

A3区西部で確認した。平面形は不整形を呈し、底部には平坦面が認められる。図示はしていないが、8世紀代の須恵器が出土していることから本期に比定した。

SX33 (第5図、第14図3)

A3区西部で確認した。SD66、P802、819に切られ、平面形は不整形を呈する。底部に明瞭な平坦面は認められない。

3は須恵器の無台杯である。

SX34、35 (第6図、第14図4)

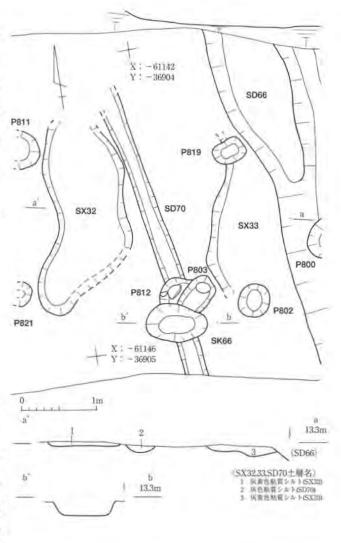
SD66とSX31との間に遺物を含む堆積があった。この堆積は明確に分層でき、上部をSX34、下部をSX35とした。A3区中央部で確認し、SD66、SX31、P798に切られる。堆積の範囲は不明瞭で、それぞれのプランの北側は調査区外に延び、南端は点線で図示した。

4 はSX34から出土した遺物で、須恵器の甕である。

第2節 3期の遺構と遺物

SD66 (第6図、第14図5~7、14)

A3区西部、下層遺構検出面で確認した。SX33~35、P818を切り、SK67、P800、801、807、808に切られる。南北に流路をとり、両端は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形であるが、西側掘り方の北半部にしっかりとしたテラスが形成され、また東側掘り方にもやや不明瞭ではあるがテラスが形成される。



第5図 SD70、SX32、33実測図

 $5 \sim 7$ は尾張型山茶碗で、5 は 4 型式の小皿、6 は 5 型式の碗、7 は大平鉢である。また 14 は SD 66 、 SK 67 、 SX 31 の確認 トレンチから出土した下呂石製の打製石鏃である。

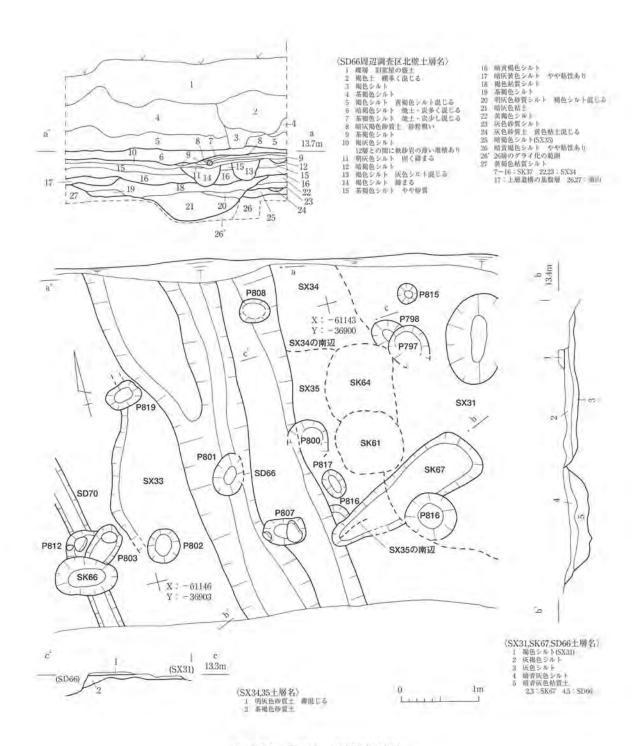
SK62 (第7図、第14図8、9)

A3区中央部、下層遺構検出面で確認した。SD69、SK65、SX31を切り、P799に切られる。大変浅い遺構で、平面形、断面形は不明である。

8は尾張型山茶碗の4型式の小皿である。9はチャート製の打製石鏃である。

SK65 (第7図)

A3区中央部、下層遺構検出面で確認した。SK62、P806に切られ、SD71、SX31、P814を切る。以上のことから、本遺構が3期に属すると判断した。平面形は不整形で、底部には平坦面がある。



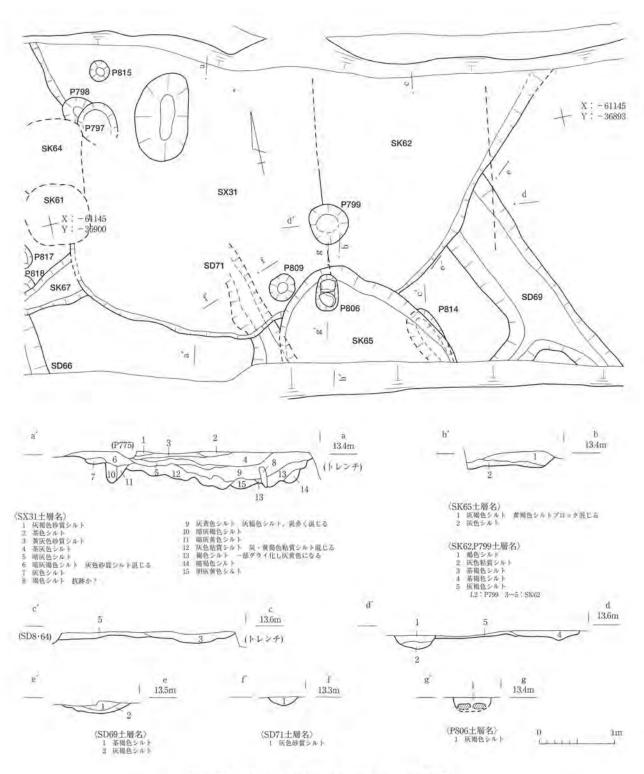
第6図 SD66、SK67実測図

SK67 (第6図)

A3区中央部、下層遺構検出面で確認した。SX31、P816に切られ、SD66、P818を切る。以上のことから、本遺構が3期に属すると判断した。平面形は不整形を呈し、底部に明確な平坦面は確認できない。

SX31 (第7図、第14図10~13)

A 3 区中央部、下層遺構検出面で確認した。SD69、71、SK67を切り、SK62、65、P797~799、809、 815に切られる。平面形は不整形で、掘り方についても平坦面はなく、中央部に向かってなだらかに深



第7回 SX31、SK62、65、SD69、71実測図

くなっていく。中央よりやや西部で、楕円形状に炭が密集する部分があり(深さはSX31底部から約30cm)、中から弥生土器の壺が出土した。

10は弥生土器の壺の底部である。11、12は尾張型山茶碗の碗で、ともに5型式である。13は中国製の青磁碗である。

3 期以前のその他の遺構

以下に記述する遺構は、A3区下層遺構検出面で確認したものであるが、切り合い関係や遺物の データが少なく、時期を特定できなかった。よって3期以前に属する遺構として記述を行う。

SD68 (第4図)

A3区東部に位置する。プランの一部は上層遺構検出面から掘り込まれるP719によって破壊されている。北西-南東に流路をとり、北西側は徐々に浅くなり検出できなくなる。南東側は調査区外に延 びる。断面形は扁平なU字形を呈する。

SD69 (第7図)

A3区中央部に位置する。SK62、SX31に切られる。北西-南東方向に流路をとり、北西側はSX31に切られ、南東側は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈する。また、調査区南壁付近で、底部の一部がテラス状に高くなる部分があり、ここから先は南西方向と南東方向に流路が分かれていた可能性も考えられる。

SD70 (第5図)

A3区西部に位置する。SK66、P803、812に切られる。南北方向に流路をとり、南側は調査区外に延び、北側は上層遺構面で確認したSD61~63、P757、758などで破壊されていることから検出できなかった。断而形は扁平なU字形を呈する。

SK66 (第5図)

A3区西部に位置し、SD70、P803、812を切る。平面形は不整楕円形を呈し、底部には平坦面がある。

P813 (別添図、第14図15)

A3区東部で確認した。平面形は楕円形を呈する。埋土中からは木杭 (15) が出土した。

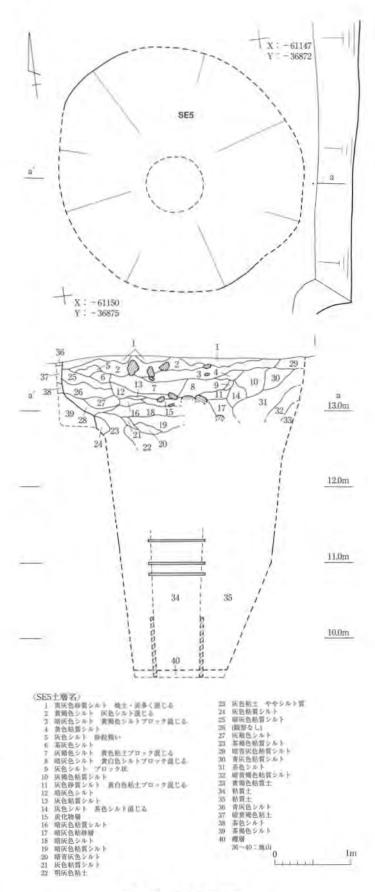
その他の下層遺構検出面で確認した遺構についても1~3期に属すると考えているが、一部の遺構 には4期以降の遺物が混じるものがあることから、上層遺構検出面で見逃した可能性がある。

第3節 4-1期の遺構と遺物

SE 5 (第8図、第14、15図16~50)

A4区東部に位置する。平面形は不 整円形を呈し、掘り方の状況から井戸 であると判断した。掘削の途中で雨な どにより掘り方がほぼ全て崩落したた め、安全上の理由から、人力による掘 削を深さ約1.5mで中止した。遺構断面 の観察において、井戸の掘り方埋土と、 井戸側埋土の明確な区別ができなかっ たことから、遺構上部の埋土は、井戸 側として設置された桶を抜き取る際の 破壊の痕跡であると判断した。ただし、 25~28層は井戸の掘り方埋土の可能性 がある。プランの東側は検出段階で焼 土の範囲としては確認できたが、それ 以下では明瞭な掘り方の立ち上がりが 確認できないことから、調査区外に延 びると考えられる。

遺構の下部構造を確認するため、重 機で断ち割りを行ったところ、海抜約 11.5mより下で桶の箍を3本確認し、 海抜約10.2mで木製品の桶が出土し た。重機のアームが届く限界の深さで あったことから、これ以上の下部の様 子は確認できず、湧水層も確認できな かったが、以上の点から、本遺構は桶 積み井戸で、出土した木製品の桶は水 溜用に設置された桶であると判断し た。理由は桶側板の下部に底板の跡が 残っており、それによりこの桶が正位 に据えられていたことが判明したから である。この桶は容器からの転用で、 加工も丁寧に施されている。以上の状 況は、平成11年度の調査で確認したSE



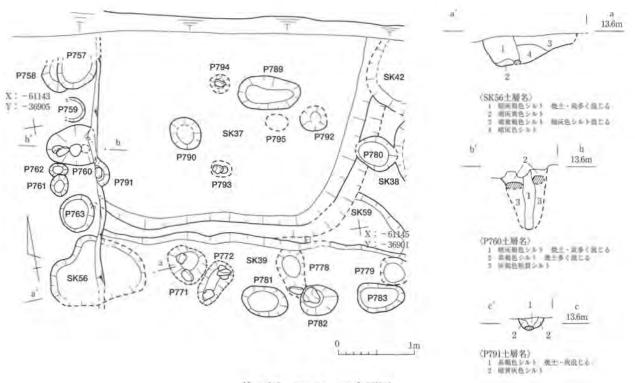
第8図 SE5実測図

1 (A1区) と酷似している。

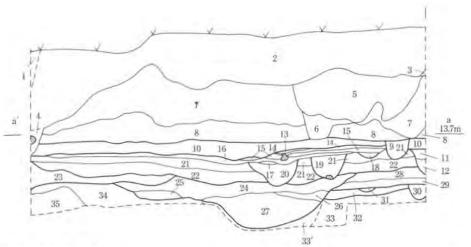
16は縄文土器の深鉢、17は土師器のS字甕、18は土師器の伊勢型甕、19は須恵器の提瓶、20は須恵器の腿、21は尾張型山茶碗の碗(6型式)、22は中国製の青磁碗である。23~30は瀬戸・美濃産陶器で、23は縁釉小皿(古瀬戸後皿期か後Ⅳ期古)、24と25は天目茶碗、26は直縁大皿(以上、古瀬戸後Ⅳ期新)、27は器種不明(古瀬戸後期)、28~30は擂鉢(28、29は大窯第1段階、30は古瀬戸後Ⅳ期新の下大窯第1段階)である。31~43は土師器皿で、31、32、35には口縁部もしくは内面にタール痕があり、また39の内面には弧状の線刻がある。44~50は木製品である。44は端部が炭化していることから着火材と考えられる。45~49は箸、50は遺構の最下部に設置された桶の側板である。

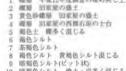
SK37 (第9、10図、第15図51~88)

本遺構の検出段階で、埋土には焼土と炭が大量に含まれたことから 4-2 期の遺構と判断し、東部にあるSK38、P780なども同様の理由でプランを確定した。SK37はSK42やP780を切るとしていたが、下層遺構検出面の調査時に、本遺構とほぼ同じ形状であるが、やや大きい範囲に線引きできる遺構があり(図中の点線の範囲)、埋土中からは戦国時代の遺物が出土したことから、この遺構はSK37であると判断した。この段階で調査区壁などを精査したところ、SK42やP780との切り合い関係が逆転したため遺物が混じった可能性がある。また本遺構埋土の焼土・炭層は第 \square 層と同一である可能性があり、これについても遺物が混じった可能性がある。また当初SK39との切り合い関係はないと考えていたが、結果としてSK39に切られることになる。その他P790、792も埋土全体に焼土塊と炭が混じることから4-2期に比定でき、SK37を切る遺構であるが、埋土の区別がつかず、SK37として掘削したことから遺物が混じった可能性がある。以上のことをふまえて記述を行う。



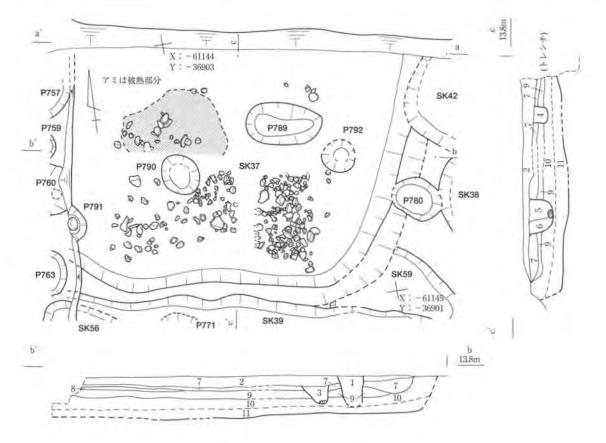
第9図 SK37、56実測図





(SK37周辺調查区北壁土層名)

- (SK37周辺調査以北壁土陽名)
 1. 機制 甲寅12年度調査の理め戻し土
 2. 機制 即原果の強土
 3. 責色が健學 田家駅の造土
 4. 機制 即家駅の造土
 5. 現色土 職券く関土
 6. 着色シルト
 8. 高色シルト
 8. 高色シルト
 8. 高色シルト
 9. 時間色シルト(カット)
 10. 明複色シルト
 2. 暗視色シルト
 11. 暗質機色シルト
 12. 暗視色シルト
 13. 茶機色シルト
 13. 茶機色シルト
 14. 次少し混じる
- 27 場所色格土 28 黄緑色シルト 29 医色砂質シルト 30 医色砂質シルト 31 医色砂質 上 黄色粉土造じる 32 晴春色シルトCSK30 33 晴春色シルトCSK30 33 晴春色シルトの株30 34 黄梅色精質シルト 35 褐色砂樹 11.12: SK42 13-22: SK37 28.29: SX34 23: 上脚連構の基盤層 33-35: 地山





(SK37,P792~794土層名)

- 3 期後色シルト 焼土 炭巻く混じる(P792) 2 極色シルト 焼土 炭巻く混じる(P792) 3 項尿褐色シルト(P794) 5 茶褐色シルト 座色シルト混じる 6 褐色シルト

- 第10図 SK37実測図
- 7 茶製色シルト 本朝の上面がなり被熱 8 端茶色シルト かなり締まる 砂岩層との五層 9 拠色シルト 前灰色シルト後じる 0 矢製色シルト 11 喉灰質色シルト 2.7~11: SK37 点6: P793

A3区西部に位置し、プラン方形を呈すると考えられるが、西側は現代の家屋の西辺に構築された 石垣により破壊されている。SK39、42、P780、790、792に切られ、SK59を切る。P789、791、793、 794が本遺構に伴うかどうかは、プランが確定できていないため不明である。

遺構上部に堆積する焼土塊・炭密集層からは多量の礫が出土し、その多くは被熱して割れていた。 礫を全て取り除くと、若干の凹凸はあるものの、平坦面が確認できた。一部には激しく被熱している 部分(図中アミかけ部分)があり、それより上部をSK37上層(b-b'、c-c' 断面第2層、以下同) とした。被熱している面より下(第7~11層)をSK37下層として掘削した際、西部でシルトと薄い砂 岩層が互層になる堆積が認められた(第8層)。下層から焼土塊や炭はほとんど出土しなかった。

以上の状況から、下層はSK37を構築した際の堆積、下層の上面(第7層の上面)は使用時の面、上層は遺構廃棄後の埋土と考えられる。出土遺物には、トリベや鉱滓付き土師器皿など、鋳造作業に関連するものが見られることから、本遺構が作業場のような性格であった可能性も考えられる。

51~69は下層から出土した遺物である。51は灰釉陶器、52は尾張型山茶碗の碗(6型式)、53は東濃型山茶碗の碗、54は中国製の青磁碗、55、56は瀬戸・美濃産陶器の天目茶碗(55は古瀬戸後IV期新、56は大窯第1段階)、57~64は土師器皿で、62~64は二次被熱して胎土が硬化し、内面には鉱滓が付着している。65はトリベ、66は土鈴の鳴子、67~69は碁石(黒石)である。

70~88は上層から出土した遺物である。70は中国製の青磁碗、71は中国製の白磁碗、72~81は瀬戸・美濃産陶器で、72は袴腰形香炉(古瀬戸後Ⅲ期か後Ⅳ期古)、73は縁釉小皿、74~76は腰折皿(以上、古瀬戸後Ⅳ期新)、77は甕(後期)、78~80は端反皿(大窯第1段階)、81は器種、時期とも不明である。82~85は土師器皿で、84、85は二次被熱して胎土が硬化し、内面には鉱滓が付着している。86は犬型土製品の足の部分、87は鉄製の釘、88は銅銭(政□通寶)である。

SK64、61、38 (第11図、第15、16図89~113)

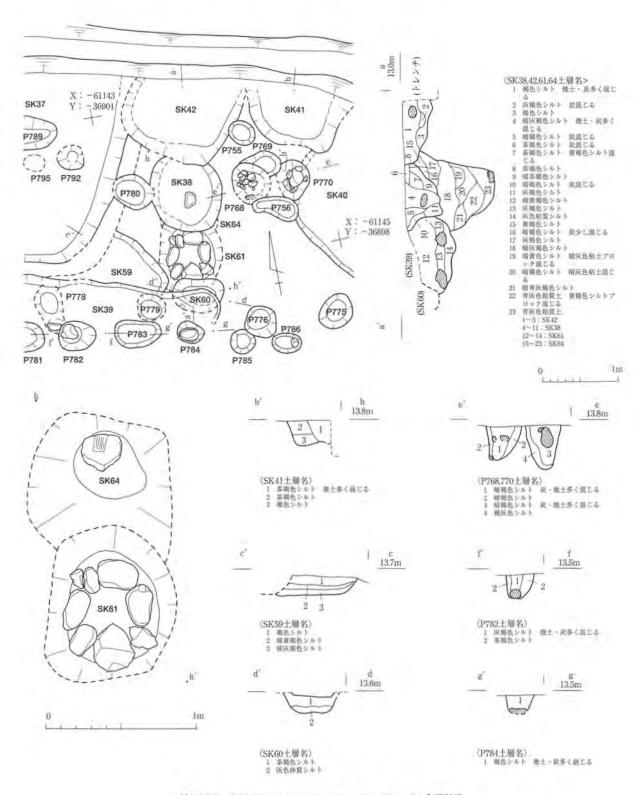
A 3 区中央部に位置する。当初はSK38のみ確認していたが、下層遺構検出面の調査時にSK61、64を検出し掘削したところ、埋土中から戦国時代の土師器皿などが出土したことから、本期に比定した。 SK64とSK38はプランがほとんど一致することから、同一遺構かと考えたが、遺構断面を精査したところ、埋土が区別でき、さらに途中にSK61の埋土があることから別遺構と判断した。よって切り合い関係は、古い方から順にSK64→SK61→SK38となる。また、SK38の半裁時にSK64の埋土まで掘削してしまったため、一部遺物が混じってしまった(第 4 表遺物集計表の「SK38・64」の項目)。以下では、このことをふまえて記述する。

SK64は不整形を呈し、掘り方の底部から上面が平らになるように据えられた石が出土した。また石の上には薄い板材を確認した。以上の状況から、SK64は柱穴である可能性が考えられるが、断面観察では柱の痕跡は確認できなかった。

SK61はSK64を切り、SK59、60に切られる。平面形は不整形を呈し、埋土中からは円環状に並べられた石が出土した。石は円礫と角礫の両方が使用されている。断面観察では、掘った穴の底部に土を入れて平らな面を形成し(第13層)、そこに石を並べ置き、再度石の上面まで土を入れた(第12層)。検出面まではさらに別の土で埋まっていた(第11層)。円環状の石の機能を確定するには情報が少ない

が、何かの土台であった可能性が考えられる。

SK38はSK64を切り、SK42、P780に切られる。平面形は円形を呈し、遺構上部と中央部の埋土(第 4、5層)には焼土塊・炭が多く混じる。掘り方埋土(第 $6\sim10$ 層)には焼土塊・炭が混じらないことから、本遺構は 4-1 期であると判断したが、第 4 層の埋土の途中に上面が平らな円礫があり、これが柱の基礎であるとするならば本遺構は 4-2 期になる可能性がある。



第11図 SK38、41、42、59、60、61、64実測図

89~93はSK64の出土遺物である。89は瀬戸・美濃産陶器の縁釉小皿(古瀬戸後Ⅳ期新)、90は土師器皿、91はトリベ、92はトリベ把手(?)、93は木製品で着火材である。

94、95はSK61の出土遺物で土師器皿である。

96~113はSK38の出土遺物である。96~99は瀬戸・美濃産陶器で、96は縁釉小皿(古瀬戸後Ⅲ期か後Ⅳ期古)、97、98は擂鉢(古瀬戸後Ⅳ期新)、99は壺類か瓶類(古瀬戸後Ⅳ期)である。100~108は土師器皿で、104~108は二次被熱して胎土が硬化し、鉱滓が付着している。109、110はトリベ、111、112はふいごの羽口、113は碁石(黒石)である。

SK39 (第9回、別添図、第16図114、115)

A 3 区西部に位置し、SK37、56、59、60、P771、772、778、779、781~784を切り、SD 8、64に切られる。平面形は不整形で、プランの西側は現代の家屋の西辺に構築された石垣により破壊されている。底部には平坦面が認められる。

114は瀬戸・美濃産陶器の天目茶碗(大窯第1段階)を加工円盤にしたもの、115は砥石である。

SK40 (第12図、第16図116~130)

A3区中央部に位置する。SK58を切り、SK41、P733、756、770に切られる。平面形は不整形を呈し、底部は平坦であるが、硬化面なども認められないことから本遺構の性格は不明である。また焼土 塊と炭が多く混じる褐色シルトで一気に埋められたような様相を呈する。

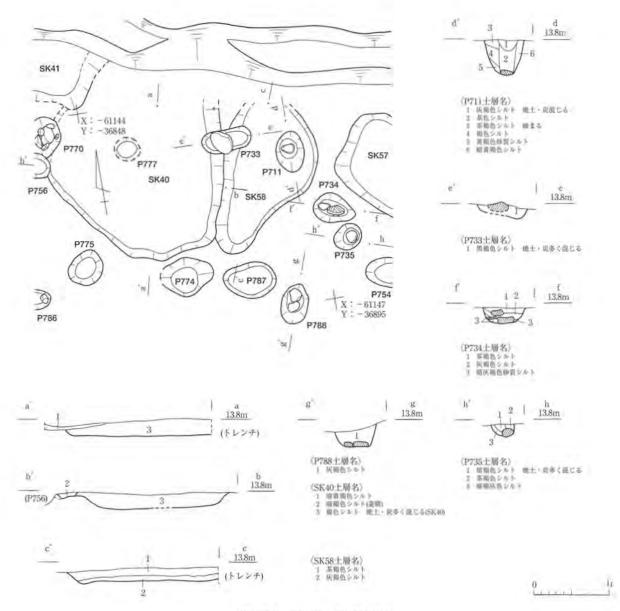
調査時には本遺構に切られると判断したP777は、埋土全体に焼土塊と炭が混じることから4-2期に比定した。切り合い関係に矛盾が生じるが、SK40検出時に見逃した可能性が高い。

116は中国製の青磁碗を加工円盤にしたもので、見込み部分には「積」の字のスタンプがある。117~121は瀬戸・美濃産陶器で、117は口広有耳壺(古瀬戸後Ⅲ期か後Ⅳ期古)、118は擂鉢、119は天目茶碗(以上、古瀬戸後Ⅳ期新)、120は花生け(古瀬戸後Ⅳ期)、121は仏餉具(大窯第1段階)である。122~126は土師器皿である。127は土鈴の鳴子、128と129は鉄製品で、128は釘、129は鎹である。130は直方体の土製品で、その中の1面には未貫通の穴が穿たれる。炉壁であろうか?

SK41、42 (第11図 第16図131~142)

A 3 区中央部に位置し、SK41はSK40、42を切る。SK42はSK37、38を切り、SK41、P755に切られる。ともに平面形は不整形を呈し、底部には平坦面がある。両者の埋土には焼土・炭が含まれることから、当初は 4-2 期の遺構として掘削したが、焼土・炭を含まない層(SK41は第 2 、 3 層、SK42は第 3 層)があることから本期に比定した。

131~142はSK42の出土遺物である。131と132は瀬戸・美濃産陶器の腰折皿(古瀬戸後Ⅳ期新)で 132は加工円盤である。133~138は土師器皿で、136~138は二次被熱して胎土が硬化し、136、137は内 面に鉱滓が付着する。139は碁石、140はふいごの羽口である。141と142は銅銭で、141は皇宋通寶であ る。



第12図 SK40、58実測図

SK50 (別添図、第16図143)

A 3 区東部に位置する。SK51を切り、SK49、P720に切られる。平面形は楕円形を呈する。 143は須恵器の甕の胴部で、外面には平行タタキ痕、内面には同心円当て具痕がある。

SK51 (別添図、第16図144)

A 3 区東部に位置する。SK50、P720、764に切られる。平面形は楕円形を呈する。 144は須恵器の椀である。

SK52 (別添図)

A3区東部に位置し、P713、719、747に切られる。平面形は不整形を呈する。

SK55 (第13図)

A 3 区中央部に位置し、P712、722、723、726に切られる。平面形は不整形を呈する。

SK56 (第9図、第16図145~147)

A3区西部に位置し、SD8、64、SK39に切られる。平面形は不整形を呈する。底部から石が出土したことから、柱穴の機能があった可能性が考えられる。

145は須恵器の高杯、146は瀬戸・美濃産陶器の縁釉小皿(古瀬戸後Ⅳ期新)である。147は土師器皿であるが、二次被熱で胎土が硬化し、内面に鉱滓が付着している。

SK57 (第13図、第17図148)

A 3 区中央部に位置し、SK55、P712、722、723、726に切られる。平面形は不整形を呈する。 148は土師器皿である。

SK58 (第12図)

A 3 区中央部に位置し、SK40、P711、733に切られる。平面形は不整形を呈する。

SK59 (第11図)

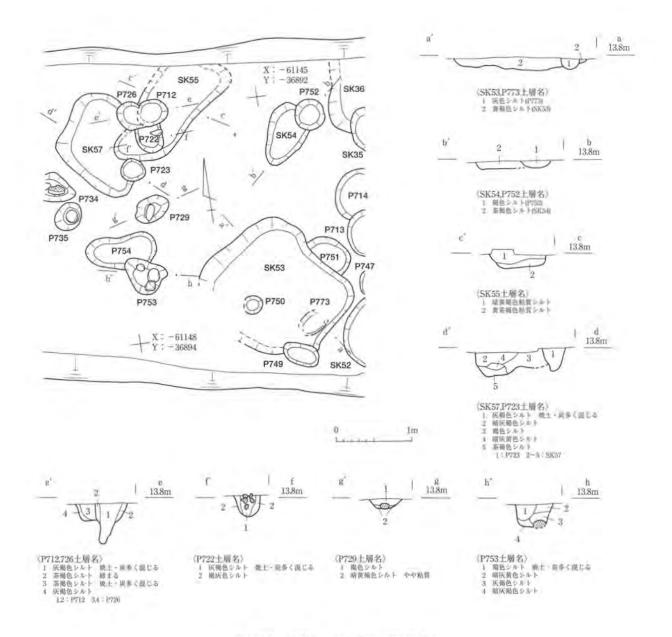
A3区西部に位置する。SK37、39、P779に切られる。平面形は不整形を呈し、底部には平坦面がある。

SK60 (第11図)

A 3 区西部に位置し、SK39に切られる。平面形は楕円形を呈する。

ビット出土遺物 (第17図149~181)

149、150はA 3 区中央部P711出土の土師器皿である。151~155はA 3 区中央部P712の出土遺物で、151、152は土師器皿、153は鉄製の釘、154、155はトリベである。156はA 3 区東部P715出土の中国製青磁碗である。157はA 3 区東部P716出土の銅銭で開元通寶である。158はA 3 区東部P719出土の土師器で屈折脚高杯(?)である。159、160はA 3 区東部P720の出土遺物で、159は常滑産の斃、160は土師器皿である。161~163はA 3 区中央部P722の出土遺物で、161は土師器皿、162は不明銅製品、163は土鈴である。164はA 3 区中央部P726出土の土師器皿である。165、166はA 3 区中央部P734から出土した遺物で、165は瀬戸・美濃産陶器の腰折皿(古瀬戸後取期新)、166は上臼である。167はA 3 区中央部P735出土の土師器皿である。168はA 3 区中央部P753出土のふいごの羽口である。169はA 3 区中央部P756出土の土師器皿である。170、171はA 3 区中央部P768の出土遺物で、170は銅銭(至道元寶)、171は土鈴である。172~174は土師器皿で、172はA 3 区西部P771、173はA 3 区西部P782、174はA 3 区中央部P788から出土した。175~181はA 3 区西部P789の出土遺物で、175は中国製青磁碗の加工円



第13図 SK53、54、55、57実測図

盤で、見込みにスタンプで花文が施されている。176は中国製の染付碗、177は瀬戸・美濃産陶器の端 反皿 (大窯第1段階)、178~181は土師器皿で、181は二次被熱して胎土が硬化し、内面には鉱滓が付 着する。

第4節 4-2期の遺構と遺物

ピット出土遺物 (第17図182~193)

182はA 3 区中央部P723出土の土師器皿である。183~185はA 3 区中央部P733の出土遺物で、183は瀬戸・美濃産陶器の腰折皿(古瀬戸後IV期新)、184は同じく端反皿(大窯第1 段階)、185は土師器皿である。186はA 3 区西部P760出土の土師器皿である。187はA 3 区中央部P776出土の瀬戸・美濃産陶器の擂鉢(古瀬戸後IV期新)である。188はA 3 区西部P780出土の鉄製の釘である。189はA 3 区中央部P785出土の土師器皿である。190はA 3 区中央部P786出土の瀬戸・美濃産陶器の擂鉢(古瀬戸後IV期新)である。191、192はA 3 区西部P790の出土遺物で、191は瀬戸・美濃産陶器の端反皿(大窯第1段階)、192は土師器皿である。193はA 3 区西部P792出土の瀬戸・美濃産陶器の腰折皿(古瀬戸後IV期新)である。

第5節 5期の遺構と遺物

SD 8、64 (別添図、第17、18図194~220)

A3区西~中央部に位置し、上層遺構検出面の上に堆積する遺物包含層(暗灰黄色シルト、暗黄褐色シルトなど)の上面から掘り込まれる。SD61、62、63を切り、P701、702、732、737に切られる。 断面形は不整V字形を呈する。本遺構は平成12年度のA2区の調査で確認した遺構の続きである。調査区中央部で掘り方が途切れるが、調査区内では溝の約半分の幅しか確認できなかったため、この部分で遺構が終わるのか、もしくは屈曲するのかの判断はできなかった。また今回の調査でSD8に切られるSD64を確認した。プランが平行することから、SD8はSD64の掘り直しと判断した。

194~217はSD 8 の出土遺物である。194は東濃型山茶碗の碗である。195~197は中国製の磁器で、195は青磁碗、196は青磁稜花皿、197は白磁皿である。198~206は瀬戸・美濃産陶器で、198、199は擂鉢、200は天目茶碗の加工円盤、201は桶(以上、古瀬戸後IV期新)である。202は器種不明(古瀬戸後期)、203は皿類(大窯第1、2段階)、204は端反皿、205は擂鉢(以上、大窯第1段階)である。206は擂鉢(古瀬戸後IV期新か大窯第2段階)である。207~212は土師器皿、213~215は近世陶磁器で、213は染付瓶、214は卸皿、215は碗である。216はトリベ、217は碁石(黒石)である。

218~220はSD64の出土遺物である。218、219は瀬戸・美濃産陶器(古瀬戸後Ⅳ期新)で、218は天 目茶碗、219は擂鉢である。220は器種、時期ともに不明である。

ピット出土遺物 (第18図221~224)

221~223はA 3 区中央部P704の出土遺物で、221、222は瀬戸・美濃産陶器の擂鉢で、222は古瀬戸後 IV期新、223は大窯第1段階である。223は肥前産の染付碗である。224はA 3 区中央部P705出土の不明 石製品である。

第6節 その他の遺構と遺物

(1)4~5期の遺構と遺物

以下に記述する遺構は、A3区上層遺構検出面などで確認したものであるが、切り合い関係や遺物のデータが少なく、時期を特定することができなかった。よって4~5期に属する遺構として記述を行う。

SD61~63 (別添図、第18図225)

平面形や掘り方などから、近接した時間に掘り直された溝と考えられる。また、本遺構が掘り込まれる面について、現代の家屋の西辺に構築された石垣より西は田であったことから、第Ⅲ層と第Ⅳ層の上面が削平されているため確定できなかった。出土遺物のほとんどが4期以前のものであるが、SD62の出土遺物に5期以降の遺物が数点ある。ただ、田に伴う堆積や石垣に伴う掘り込み埋土から混じった可能性も否定できないことから4~5期とした。以上のことをふまえて記述する。

A3区西部に位置する。SK56、P757~763を切り、SD8、64に切られる。断面形はともに扁平U字 形を呈する。

225はSD61出土の土師器皿である。

SK32~36、43~49、54 (別添図)

A3区東部に位置する。平面形が不整形のものが多く、掘り込みも浅いことから、遺構の性格は不明である。

SK53 (第13図)

A3区東部に位置する。P751を切り、SD8、64、P749、750、773に切られる。平面形は不整方形を 呈し、底部には平坦面がある。

P774 (第12図、第18図226)

A3区中央部で確認した。平面形は不整形を呈する。

226は灰釉陶器の皿である。

(2)層位の遺物

A 3 区 I 層出土遺物 (第18図227~231)

227は土師器の有段高杯である。228、229は瀬戸・美濃産陶器で、228は花瓶(古瀬戸後IV期)、229 は天目茶碗(古瀬戸後IV期新)である。230は近世陶磁器の口広有耳壺、231は土錘である。

A 4 区 I 層出土遺物 (第18図232)

232は常滑産の甕である。

A 3 区 Ⅱ 層出土遺物 (第18図233~244)

233は中国製の白磁小杯である。234、235は瀬戸・美濃産陶器(古瀬戸後Ⅳ期新)で、234は擂鉢、235は腰折皿である。236~238は土師器皿で、238は二次被熱により胎土が硬化している。239、240は近世陶磁器で、器種は不明である。241はトリベ、242は土錘、243は土鈴の鳴子、244は土鈴である。

A 3 区 II · III 層出土遺物 (第18図245)

245は近世陶磁器で、器種は不明である。

A 3 区Ⅲ層出土遺物 (第18図246~250)

246、247は瀬戸・美濃産陶器(古瀬戸後Ⅳ期新)で、246は天目茶碗、247は腰折皿である。248、 249は土師器皿で、249は二次被熱により胎土が硬化し、内面には鉱滓が付着する。250は土鈴である。

A 3 区 IV 層出土遺物 (第18図251)

251は土師器の有段高杯である。

A 3 区 II ~ IV 層出土遺物 (第18図252~255)

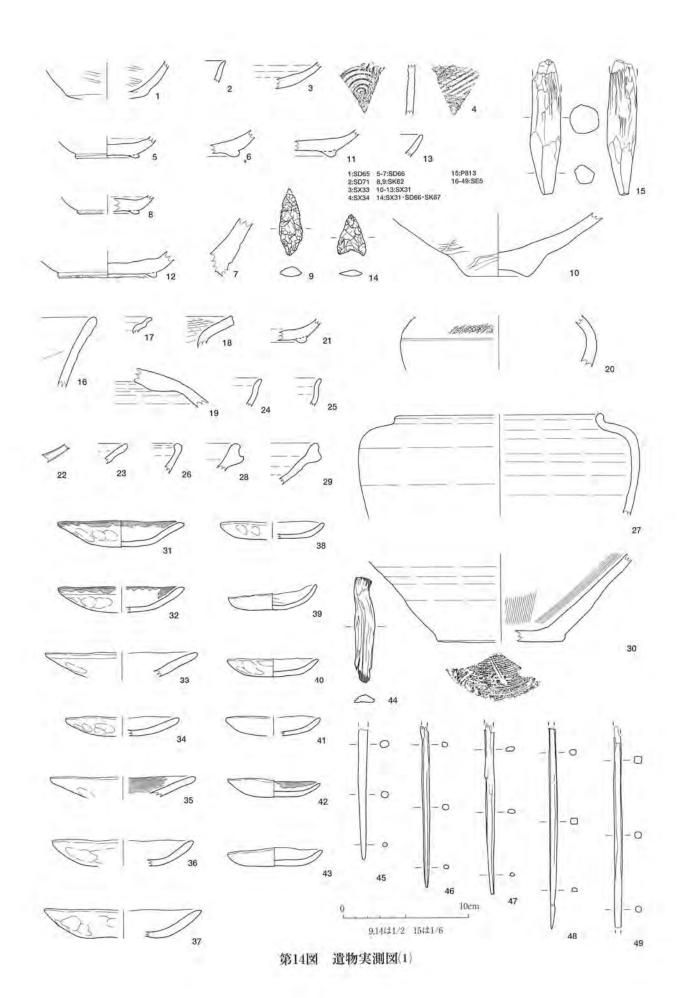
調査区北壁際に掘削したサブトレンチから出土した遺物である。

252は土師器のS字甕、253、254は土師器皿で、254は耳皿 (?) である。255は近世陶磁器の碗である。

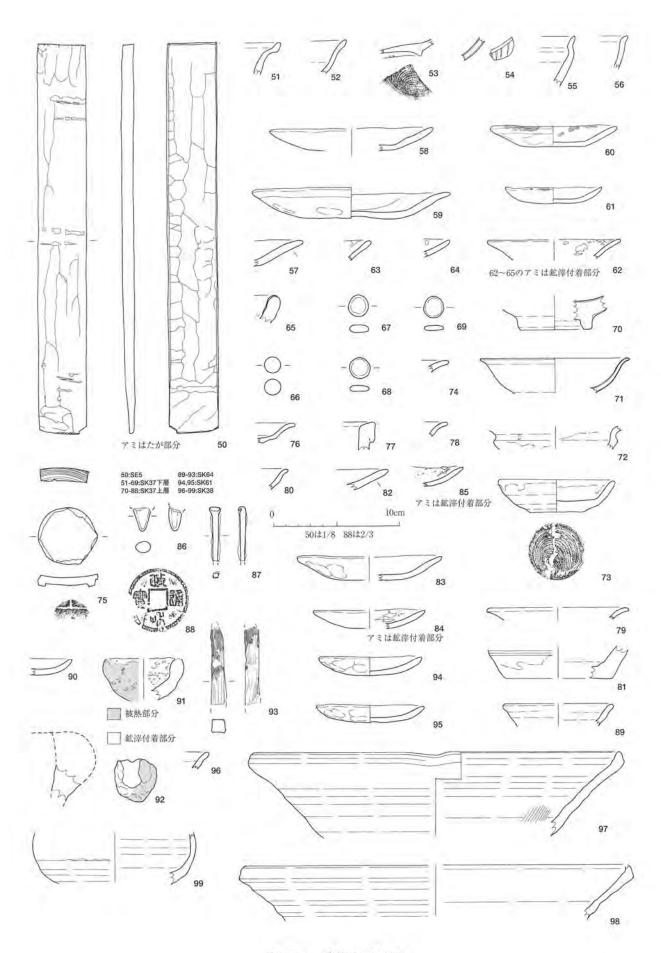
出土箇所不明遺物 (第18図256~258)

遺物の量や時期から判断して、おそらく 4 期の遺構から出土したと考えられるが、調査時の不注意で出土箇所の記録を忘れたため、所属が不明の遺物である。

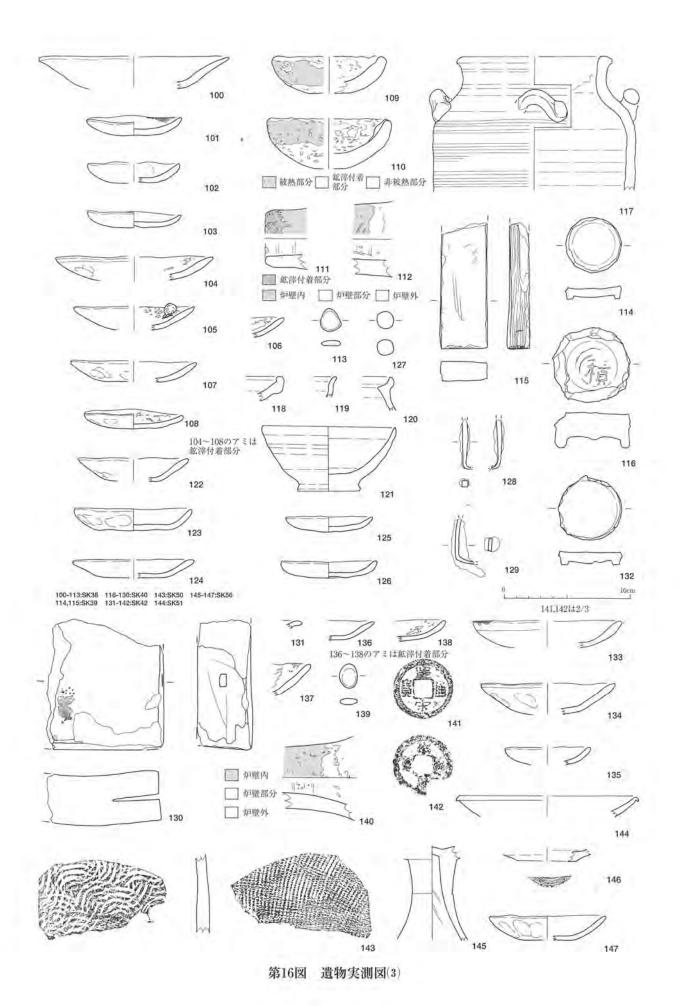
256は瀬戸・美濃産陶器の天目茶碗(古瀬戸後Ⅳ期新)である。257、258は土師器皿である。

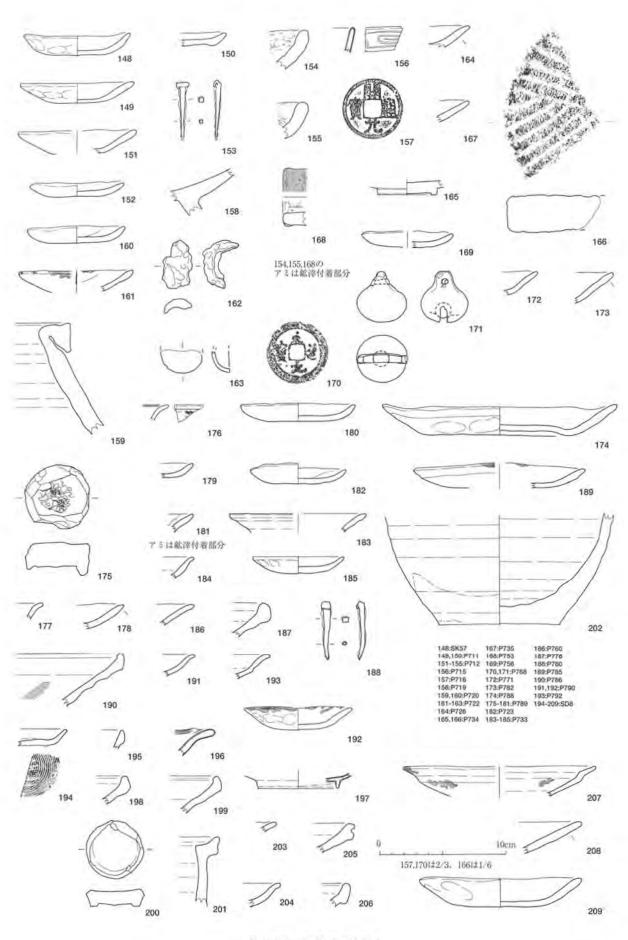


- 25 -

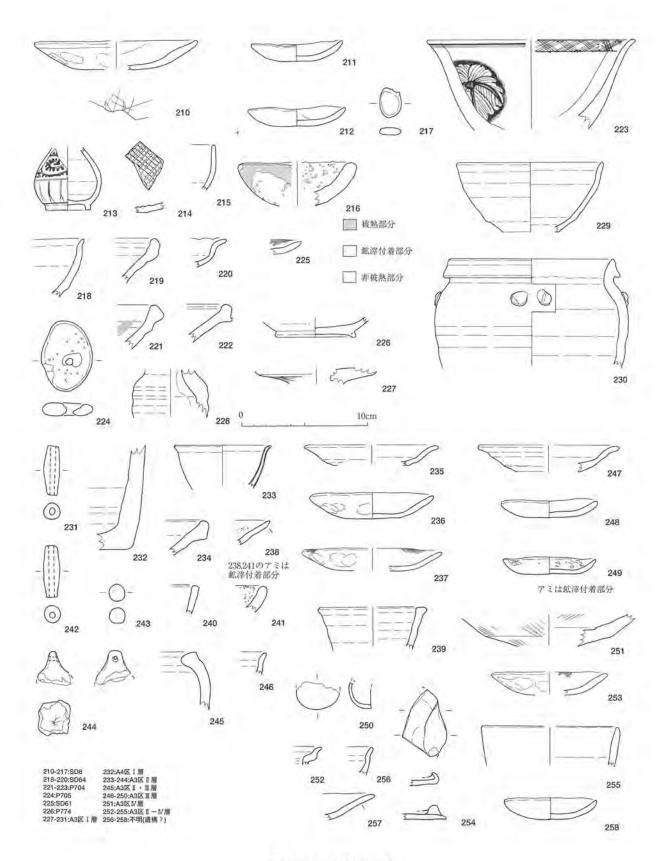


第15図 遺物実測図(2)





第17図 遺物実測図(4)



第18図 遺物実測図(5)

VE				P				
養等、地区 層位 時期 平面形 5 A4 - 4-1 不整円形	規模(m) 并产侧径(0.75)、能力等3.36。課(4.25	備者	回版		層位 時期 平面形 上層 5 不明	規模(m) 長軸0.52。第0.18	備考	即於
DIAH - PUMBA	[并严關性(0.40)、概方量3.30。统任20	u	_			長輔0.50、流0.20		-
SD						長隆0.68、極後0.28、間0,20	底部に石	
春号 地区 時期 断面形	规模(m)	備者	国版	734 A3	上層 4-1 不整帐	受鲍0.55、短朝0.39、深0.20	庭前に石臼	
8 A3 上圖 5 不整V字符				735 A3	上層 4-1 精円担	長径0.39。短径0.30、座0.18	直動に右	
51 A3 上層 - 編甲U字形 62 A3 上層 - 編甲U字形	長(3,84), 個0,38, 間0,20		-	736 A3		長軸0.45、短軸(0.261, 厚0.08		-
	委(3.86), 幅(0.18), 000.14 委(2.76), 幅0.28, 茂0.15	-	+	737 A3	上層 5 円形	经0.55。原0.11 長軸0.30、短軸(0.18)。原0.09		-
64 A3 上版 5 KID)	長(13,60), 福(0,33), (20,80					長軸0.25、短軸0.18、原0.11		
65 A3 下順 2 逆台用	長(4.38) 400.46 (第0.28			740 A3	上坡 一 不應那	長輔0.41、短輔0.32、回0.05		
68 A3 F編 3 福平U字形	長(4.70)。檔2.35. 課0,50			741 A3	上順 - 株円形	長径0.34、短径0.23、近0.08		
67 欠番	195 15 16 16 16 16					長軸(0.52)、短軸(0.47)。梁0.60		
69 A3 FM - 原平U字形	B(2.10), 980.60 790.13		-	743 A3		長径0.46、短径0.32、厚0.21		
69 A3 下層 - 扁甲U字形 70 A3 下層 - 扁平U字形	長(4.10) 400.38 700.09	_	+	744 A3 745 A3		長軸0,70, 短軸0,40. 次0,19 長軸0,44, 短軸0,26. 南0,26		-
71 A3 下層 2 機小V字形			1	748 A3		径0.60、页0.22		
				747(A3	上層 一 不整形	長幅0.40 81億0.35 (〒0.1.1	医音に石	
SK			-	748 欠番				
長号 地区 時期 宇面市 31 大乗(井戸と判断しSESと(477	製機(m)	頂考	BURE			長径0.50。毎径0.28。回0.18		-
32 A3 上層 - 横円形	長径0.87、順径0.41、原0.07			777 A9	L 50 30 (K)	图0.26, 图0.18		-
31 43 上編 - 医療程	長軸0.81, 照軸(0.36), 原0.10			757 43		長軸0.62、短軸(0.34)。同0.06 括0.40、隣0.08		
34 A3 上編 - 円形	径0.88, 衛0.08					長軸0.53。短軸0.47、原0.38	直部に石	
35 八3 上層 一 押刊版	表径1.14. 短径0.87. 深0.10					長軸0,94_短軸0,42、原0,33		
36 A3 上履 - 不捌	長韓1.24、母輔1.06、深0,50			755 A3	上版 4-1 楕円形	長径0,38, 炬径0,30, 四0.32		
37 A2 上層 4-1 方形	長辺3.75、恒辺2.72、南0.39	1000		756 A3	上層 4-1 不整形	長輔0.64。 短軸0.32, 原0.11		
38 A3 上版 4-1 円形	径0.95、 深0.49	柱尖並	-	757 A3		亚軸0.54、短軸(0.42)、深0.40		-
39 A3 上層 4-1 不整形 40 A3 上層 4-1 不整形	長軸(4.79), 短軸(0.80), 関0.10 長軸(2.50), 短軸(2.10), 図0.22		-			長軸(0.34)、短軸(0.20)、河0.28 長軸0.32、短軸(0.24)、河0.0		
41 A3 上層 4-1 不整形	長軸(1.50)。短軸(3.10)。向(0.22)		-			長軸(0.56)、短軸(0.24)。四0.10 長軸(0.66)、短軸0.54、四0.78		-
42 A3 上層 4-1 不整形	長輪1,45, 恒軸(),14), 深0.42					長軸0.28。 座軸0.21、 原0.21		
43 A3 上編 - 楕円形	長径0.71、短径0.46、周0.08					長径0.26、短径(0.14)、周0.22		
44 A3 上層 - 精刊形	長径0.71、肥積0.21、ლ0.06			T63 A3	上層 4-2 円形	径0.46、梁0.21		
45 A3 上個 一 不敬形	長軸0,94。短軸0,56。南0.0B			764 A3	上層 一 円形	径0.30, 深0.06		
46 A3 上侧 - 不整形	長軸1,10, 恒軸0.84,17,0.04			765 A3		長軸(0.46)、短軸(0.76)、厚0.10		
47 A3 上層 - 不整楕円形	長径0.53, 短径0.48, 徑0.04 長軸(1.08), 班軸(0.23), 徑0.10			766 A3		長軸0.33, 垣軸(0.25)。南0.08		
48 A3 上層 - 不明 49 A3 上層 - 不明	長軸(1.08)、短軸(0.33)、図0.10		-	707 A3	上版 小 地田田	径0.23、探0.06 長径0.57、短径0.49、保0.44		-
50 A3 上層 4-1 楕円形	長径(1.20)。短径(1.06)。際0.33		-			是軸0.35。短軸(0.25)。例0.18		-
51 A3 上陽 4-1 作円形	長送1,38, 明禄(0,68), 澤0,25					長径0.58, 短径0.44, 限0.59		
52 A3 上層 4-1 不整形	英數1,85, 短軸0,70, 碳0,10					見軸0.55, 短軸0.45, 使0.20		
53 A3 上層 - 不整方形	長辺1,75, 妲辺1.50, 腰0.17			772 A2	上層 4-1 楕円形	具径0.60, 短径0.31 原0.11		
34 A3 上層 ~ 不整修円形				773 A3 L	上層 一 不明	長軸0.34、短軸0.30 閏0.15		
55 A3 上層 (-1 不整形	長軸(1.82)。短軸0.76、面0.25			774 A3	上層 一 不整則	長輪0.70、短輪0.52、四0.40		
56 A3 上層 4-1 不整照	長軸(1,27)。 短軸(0,91)、限0,39	歴報に右		775 A3	上層 一 不整剂	長軸0.50、無軸0.42、間0.13		
57 人3 上層 4-1 不整例	長軸1.43、短軸(0.97)、1至0.32		-		上層 4-2 不報形	長軸0.48、短軸0.42、厚0.13	mount within 6 collect	
58 AJ 上層 4~(石壁用	委軸(2.05)、短軸(1,22)、梁0.17 長軸(0.90)、附軸(0.70)、梁0.26	+	-		上曜 4-2 円用	(0.34), \$5(0.14)	SK402の切り会い更ク	
59 A2 上層 1-1 不整形 60 A3 上層 4-1 楕円形	長極0,65, 磁極0,48, 深0,26	-	1			股軸0.70、短軸0.38。限0.29 径0,38、從0.20		+
61 A3 上層 4-1 不製房	長軸1.01, 短軸0.84, 深0.65	底部に右(四間が	(1)			長軸(0.58)、短軸0,46、深0,40		-
62 A3 下層 3 不明	長軸(2,50)。組軸(2,30)。譯0,14	AGENTS OF THE V	1			長陸0.58、短径0.30、层0.17		-
68 欠新				782 A3	上層 4-1 種円面	長径0.48. 短径0.38. 度0.14	店別に石	
64 A1 上層 4-1 不整形	長朝1.19、短朝(1.06)。原1.16	底部に石		783 A3	上欄 4-1 横円形	長径0.62, 短径0.35, 原0.18		
65 AT 下₩ 3 不整形	長難2.32、短触1.31、煙0.21		1			長軸9.36、短軸0.26 億0.18		
66 A7 下順 - 不整摘円形			-	785 A3	上層 4-2 円形	後0.30、第0.13	William .	-
67 A3 下層 1 不整形	委報2,19, 短軸0,70, 深0,18					長輪0,35, 短輪0,26, 第0,36 長輪0,72, 短輪0,50, 第0,30	進帯に石	-
SX						長径0.53、組径0.35、間0.30	進制に石	-
衛号 地区 特別 新面形	規((m)	備者	国版			長径0.80、粧径0.46、厚0.37	ME 1070 M	
31 A3 下層 3 不提出	長輪6.95、短軸位,560、頭0,50					径0.40、床0.45		
82 A3 F層 2 不輕形	長軸(2,59)。短軸(1,02)。深0.08				上層 4-7 不明	長軸(0.40), 短軸(0.22), 際0.18		
33 A3 下層 2 不整形	長軸(2,28)。風軸(1,07)。深0.13						進前に右	
					上層 月七 不整別	長輪0,38、短軸(0,34)。 (2(0,30)		E
34 A3 下層 2 不明	(20.20			793 A3	上層 4-2 不整別	長輪0,38, 短軸(0,34), 億(0,30) 長锋(0,28), 短径(0,20), 厚0.24	医部に石	
35 A3 下層 2 不明				793 A3 794 A3	上層 4-1 有円所 上層 4-1 円形	長韓0,38, 短軸(0,34), (図(0,30) 長锋(0,28), 短径(0,20), 〒0.24 怪(0,25), 第0,14	底部に石 底部に石	
	(20.20			793 A3 794 A3 795 A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 楕円所 上層 4-1 円形	長輪0,38, 短軸(0,34), 億(0,30) 長锋(0,28), 短径(0,20), 厚0.24	医部に石	
25 A3 下層 2 不明 中 春号 足区 層位 時期 - 平並形	(第0.20 (第0.08 被模(m)	- 68	Max	793 A3 794 A3 795 A3 796 大壽 797 A3	上層 4-2 不整用 上層 4-1 楕円形 上層 4-1 円形 上層 4-1 不明 下層 3 円彫	長輪0,38,短輪(0,34)。原(0,50) 長径(0,28)、短径(0,20)。原(0,24 每(0,25)。原(0,14 長輪0,30。短軸一。原(0,20) 径(0,52)。原(0,10	底部に石 底部に石	
35 A2 下層 2 不明	(第0.20 (第0.08 財權(m) 径0.38。開急.11	85	國家	793 A3 794 A3 795 A3 796 XS 797 A3 798 A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 精円胎 上層 4-1 円形 上層 4-1 不明 下層 3 四形 下層 3 不明	集翰0.38, 短翰(0.34)。原(0.30) 長隆(0.28)、短禄(0.20)。原(0.24) (\$(0.28)、短禄(0.20)。原(0.24) 長雄(0.30)、短緬(- 原(0.20) (達0.52) 原(0.10) 長韓(0.41)、原報(0.25)。原(0.15)	底部に石 底部に石	
35 A3 下層 2 不明 書号 地区 層位 時期 平差形 701 A5 上層 8 円形 702 A3 上層 8 円形	(第0,20 (第0,08		1000	793 A3 794 A3 795 A3 796 大壽 797 A3 798 A3 799 A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 楕円旅 上層 4-1 円形 上層 4-1 不明 下層 3 円形 下層 3 円形	與韓0,38,短韓(0,34)。國(0,30) 及隆0,28)、題後(0,20)。國0,34 (後(0,25)。從0,14 夏韓0,30、短韓一、國(0,20) (後(0,52)。國0,10 長韓0,41、短韓(0,25)。國0,15 (春0,52)。國0,18	底部に石 底部に石	
55 A3 下層 2 不明 B	(第0,20 (第0,08)) (第0,39, (第0,11 (第0,45, (第0,17 (美香0.67, 前径0,40, (第0,11	得考	IN SK	793 A3 794 A3 795 A3 796 大壽 797 A3 798 A3 799 A3 800 A5	上榜 4-2 不整別 上榜 4-1 内内 上榜 4-1 内形 上層 4-1 不明 下層 3 凡形 下層 3 不明 下層 3 不明	為 韓0.38, 短軸(0.40), (2(0.30) 長径(0.28), 短传(0.20), 同0.24 传(0.26), 第0.14 長軸0.30, 短軸- 。同(0.20) 径(0.52, 研0.16 長軸0.31, 短軸(0.25), 同0.15 径(0.52, 原0.18 長軸0.52, 更0.18	底部に石 底部に石	
55 A3 下層 4 不明 音号 地区 簡化 時期 子並移 701 A1 上層 5 円形 702 A3 上層 5 円形 703 A3 上層 5 楕円形 704 A3 地 8 5 楕円形	(第0,20 (第0,08) (第0,08) (第0,11 (第0,45, (第0,17 英语0.67, 前径0.40, (第0,11) 英语0.60, 前径0.40, (第0,48		DI N	793 A3 794 A3 795 A3 796 欠壽 797 A3 798 A3 799 A3 800 A5 801 A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 楕円形 上層 4-1 円形 上層 4-1 円形 下層 3 円形 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 格内形	鼻輪0.38, 短軸0.44, (20.30) 長径(0.28)、 围径(0.20) (第0.24 皆(0.28)、 第0.14 長軸0.30, 矩軸- [第(0.20) 径0.52, (第0.16 長軸0.41, 矩軸(0.25), (第0.15 径0.52, (第0.18 長軸0.52, 距前(0.45), (第0.09 長径(0.57) 現径(0.40) (第0.30	底部に石 底部に石	
S5 A3 下層 2 不明 P	(第0,20 (第0,08 選種(m) 種0,38 (第0,11 極0,45 (第0,17 黃苍0,67 (前径0,40 (第0,11) 長径0,60 (前径0,46 (第0,48 長径0,71 (前径0,44 (第0,24	進想に石	阿坎	793 A3 794 A3 795 A3 796 欠壽 797 A3 798 A3 799 A3 800 A5 801 A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 楕円形 上層 4-1 円形 上層 4-1 円形 下層 3 円形 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 格内形	鼻 韓0.38, 短軸0.140, (200, 30) 長径(0.28), 短传(0.20), 同0.24 信(0.26), 何0.14 長軸0.30, 短軸一。同(0.10) 径0.52, 原0.10 長軸0.41, 短軸(0.15), 同0.15 長0.52, 房0.18 長軸0.52, 旺軸(0.45), 同0.09 長径(0.57, 短径(0.4), 同0.09 長径(0.4), 停0.41	底部に石 底部に石	
55 A3 下層 2 不明	(第0,20 (第0,08 (第0,08 (第0,11 (第0,45, 第0,47 美香0,67 超移0,40, 第0,11 美香0,60 超移0,46, 第0,48 美径0,71 超移0,44, 第0,24 传移0,45 第0,04		DK)-9K	793 A3 794 A3 795 A3 796 欠壽 797 A3 798 A3 799 A3 800 A5 801 A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 楕円形 上層 4-1 円形 上層 4-1 円形 下層 3 円形 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 格内形	為 韓0.38, 短軸0.340, (200.30) 長径(0.28)、 題 传(0,20)、 南0.24 情(0.26)、 第0.14 長軸0.30、 短軸一。 (200.20) 径0.52、 (50.10 長軸0.52、 (50.10 長軸0.52、 (50.10 長軸0.52、 (50.10 長極0.52、 (50.10 長極0.52 (50.10 長西0.24 (50.10 長西0.1	底部に石 底部に石	
S5 A3 下層 2 不明 P	(第0,20 (第0,08 (第0,08 (第0,11 (图0,45, 第0,47 (图0,45, 第0,47 (图0,40, 第0,40, 第0,44 (图0,45, 第0,04 (图0,45, 第0,04 (图0,45, 第0,04 (图0,45, 第0,04 (图0,45, 第0,04	進想に石	DI M	793 A3 794 A3 795 A3 796 X3 797 A3 799 A3 800 A3 801 A3 802 A3 802 A3 803 A3	上傳 4-2 不整別 上編 4-1 韓円形 上編 4-1 本明 下層 3 四形 下層 3 四形 下層 5 四形 下層 5 四形 下層 6 和列 下層 7 和列 下層 7 和列 下層 7 和列 下層 9 和列 阿那	鼻輪0.38, 短軸0.144, (素(0.30) 長径(0.28)、随径(0.20)、南0.24 核(0.28)、第0.14 長軸0.30, 延伸- 兩(0.20) (香0.52, (雨0.16) 長軸0.41, 原軸(0.15)、南0.15 核0.52, (雨0.18 表軸0.52, 短触0.45, 兩0.09 長径(0.57, 斑径(0.40), 南0.00 板(4.1)。原 板(4.1)。底 板(4.1)。	底部に石 底部に石	
255 A3 下層 本 不明 中	(第0,20 (第0,08 (第0,08 (第0,11 (第0,45, 第0,47 美香0,67 超移0,40, 第0,11 美香0,60 超移0,46, 第0,48 美径0,71 超移0,44, 第0,24 传移0,45 第0,04	進想に石	國際	793 A3 794 A3 795 X5 796 X5 797 A3 798 A3 799 A3 800 A3 801 A3 802 A3 803 A3 804 A3 805 A3	上傳 4-2 不整用 上傳 4-1 帽 所形 上蘭 4-1 尾 所 下下 第 3 风 那 下下 第 3 风 那 下下 第 5 风 不明 下下 第 5 风 不明 下下 第 一 风 那 下下 第 一 八 四 下下 下 第 一 八 四 下下 下 第 一 八 四 下 下 百 四 四 下 下 百 四 四 下 下 百 四 四	為 韓0.38, 短軸0.340, (200.30) 長径(0.28)、 題传(0,20)、 南0.24 情(0.26)、 第0.14 長軸0.30、 短軸一。 南(0.20) 径(0.52、 雨0.16 長軸0.52、 雨0.18 長極0.52、 雨0.18 長極0.52、 短0.10 長板0.52、 短0.10 長板0.52、 短0.10 長板0.41、 探 長板0.41、 探 長板0.32、 探0.10 長板0.34、 探0.10 長板0.34、 探0.10 長板0.34、 探0.10 長板0.34、 探0.10 長板0.34、 探0.10 長板0.34、 探0.10	底部12石 底部12石 底部12石	
S5 A3 下層 表 不明 日本 下面 日本 下面 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	(第0.20 (第0.08) 期報(m) 種0.39 (第0.11) 極0.45 (第0.47) 長径0.67 (前径0.40 (第0.11) 長径0.60 (前径0.40 (第0.44) 長径0.61 (第0.04) 長径0.63 (前径0.24 (第0.09) 長径0.30 (前径0.25 (第0.09) 長径0.30 (前径0.25 (第0.05) 長径0.29 (前径0.20 (第0.05) 長径0.30 (前径0.20 (第0.05) 長径0.30 (前径0.20 (第0.05) 長径0.30 (前径0.20 (第0.06)	造器に石 底部に石	到规	793, A3 794, A3 795, A3 796, X3 797, A3 799, A3 800, A3 801, A3 802, A3 804, A3 805, A3 806, A3 806, A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 有円形 上層 4-1 不明 下層 3 四形形 下層 3 四形形 下層 3 精円形 下層 3 精円形 下層 - 不明 下層 - 不明	鼻輪0.38, 短軸0.144, (200,30) 長径(0.28)、 題传(0,20)、 南0.24 核(0.28)、 第0.14 長軸0.30、 延軸一 - 南(0.20) 径0.52、 (50.16 長軸0.41、 短軸(0.35)、 (20.15 径0.52、 (20.18 長軸0.52、 (20.18 長軸0.52、 (20.18 長軸0.53、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長極0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.55 長径0.55 長径0.55	底部に右 底部に右	
S5 A3 下層	第0.20 (第0.08) 對核(m) [20.45, 第0.11] [20.45, 第0.17] [20.45, 第0.47] [20.45, 第0.47] [20.45, 第0.47] [20.45, 80.47] [20.44] [20.24] [20.46] [20.04] [20.04] [20.05]	進想に石	101.9g	793, A3 794, A3 795, A3 796, X\$ 797, A3 799, A3 799, A3 800, A3 801, A3 802, A3 803, A3 804, A3 806, A3 807, A2 808, A3 808, A3 808, A3 808, A3 808, A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 有円形 上層 4-1 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 6 不明 下層 7 不明 下層 7 不明 下層 7 核円円 下層 7 核円円 下層 7 核円円形 下層 7 核円円形 下層 7 核円円形 下層 7 核円円形 下層 7 核円円形	為韓0.38, 短軸0.340, 高(0.30) 長径(0.28), 題传(0.20), 同0.24 核(0.26), 原0.14 長軸0.30, 短軸- 。同(0.20) 徒0.52, 原0.10 長軸0.41, 短軸(0.15)。同0.15 校0.52, 原0.10 長極0.57, 現径(0.45)。同0.00 長径(0.57, 現径(0.45)。同0.00 長径(0.44)。原 長軸(0.42)、短軸(0.36。原(0.24 括(0.32, 原0.10 長極0.35。原位(0.24 長極0.35。原位(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00 長径(0.55)。原径(0.38)。同0.00	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
35 A3 下層 2 不明 日本 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(第0.20 (第0.08) 期極(m)	造器に石 底部に石	10.00	794 A3 794 A3 795 A3 796 XS 797 A3 799 A3 800 A3 800 A3 801 A3 802 A3 804 A3 805 A3 806 A3 807 A3 808 A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 有円形 上層 4-1 不明 下層 3 四形形 下層 3 四形形 下層 3 精円形 下層 3 精円形 下層 - 不明 下層 - 不明	鼻輪0.38, 短軸0.144, (200,30) 長径(0.28)、 題传(0,20)、 南0.24 核(0.28)、 第0.14 長軸0.30、 延軸一 - 南(0.20) 径0.52、 (50.16 長軸0.41、 短軸(0.35)、 (20.15 径0.52、 (20.18 長軸0.52、 (20.18 長軸0.52、 (20.18 長軸0.53、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長軸0.34、 (20.18 長極0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.47、 同径0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.55 、 暖石0.28 (20.18 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.47 長径0.55 長径0.55 長径0.55	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
# 255 A3 下層 ま 不明 # 355 MZ	(第0.20 (第0.08) 期報(m) [20.39 (50.11) [20.45 (50.47) [20.45 (50.47) [20.47] [20.47] [20.47] [20.48] [20.48] [20.48] [20.48] [20.48] [20.48] [20.49] [20.48] [20.49] [20.49] [20.40]	造器に石 底部に石	国 里	794, A3 794, A3 795, A3 796, X5 797, A3 800, A3 802, A3 803, A3 804, A3 805, A3 806, A3 806, A3 807, A2 808, A3 807, A2 808, A3 809, A3	上傳 4-2 不整用 上編 4-1 相 所形 上編 4-1 相 所形 上編 4-1 相 所形 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下下下層 - 不明 下下層 - 不明 下下層 - 不明 下下層 - 不明 下下層 - 四形 下下層 - 四形 下層 - 四形 下層 - 四形	鼻輪0.38, 短軸0.140, 卤(0.30) 鼻轴0.38, 短轴(0.10), 同0.24 核(0.26), 覆6.14 鼻軸0.30, 短軸- , 同(0.10) 径 0.52, 原0.10 麦軸0.41, 短軸0.151, 厚0.05 及軸0.52, 短轴0.18, 同0.05 反極0.57, 短径0.49, 同0.31 长轴(0.44), 原一軸0.36, 原0.05 长轴(0.42), 短軸0.36, 原0.24 核0.32, 度0.10 长轴0.34, 短轴0.28, 周0.14 長径0.47, 短径0.28, 周0.14 長径0.47, 短径0.28, 周0.14 長径0.47, 短径0.28, 周0.18 长径0.48, 原0.10	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
### 255 A2 下層 ま 不明 P まか P	(第0.20 (第0.08)	造器に石 底部に石	(8) (g)	793, A3 794, A3 795, A3 796, X3 797, A3 797, A3 799, A3 799, A3 800, A3 801, A3 802, A3 805, A3 806, A3 807, A2 808, A3 809, A3 809, A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 帽内形 上層 4-1 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 病四 下下下層 一 不明 下層 - 不明内形 下層 - 不明内附 下層 - 不明内内形 下層 - 3 病因形 下層 - 5 病因形 下層 - 5 病因形 下層 - 7 報 日 四 形 形	最輕0.38, 短軸0.144, 卤(0.30) 長径(0.28), 風传(0.20), 同0.24 (\$0.26), 原0.14 長軸0.30, 短軸- 。同(0.20) 径0.52, 原0.16 長軸0.41, 短軸0.25, 同0.15 長0.52, 原0.18 長軸0.52, 原0.18 長極0.57, 現径0.40, 同0.30 長径0.57, 現径0.40, 同0.30 長径0.44, 原 長柱0.44, 原 長柱0.44, 原 長柱0.44, 原 長柱0.45, 原 長柱0.	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
## 25 A3 下層 ま 不明 中 書号 地区 簡化 呼解 子重号 705 A3 上層 5 円息 705 A3 上層 5 両円形 705 A3 上層 5 両円形 706 A3 上層 5 両円形 706 A3 上層 - 両円形 708 A3 上層 - 両円形 708 A3 上層 - 両円形 708 A3 上層 - 両円形 710 A3 上層 - 両円形 711 A3 上層 - 両円形 712 A3 上層 - 両円形 713 A3 上層 - 1 両円形 713 A3 上層 - 1 両円形 713 A3 上層 - 1 両円形 714 A3 上層 - 1 「不要示 715 A3 上層 - 1 不要示 - 1 不要示 - 1 不要示 - 1 - 1 - 1	(第0.20 (第0.08) 期極(m)	統領に石 統領に石	國 規	793, A3 794, A3 795, A3 796, X3 797, A3 797, A3 799, A3 799, A3 800, A3 801, A3 802, A3 805, A3 806, A3 807, A2 808, A3 809, A3 809, A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 帽内形 上層 4-1 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 病四 下下下層 一 不明 下層 - 不明内形 下層 - 不明内附 下層 - 不明内内形 下層 - 3 病因形 下層 - 5 病因形 下層 - 5 病因形 下層 - 7 報 日 四 形 形	最輕0.38, 短軸0.144, 卤(0.30) 長径(0.28), 風传(0.20), 同0.24 (\$0.26), 原0.14 長軸0.30, 短軸- 。同(0.20) 径0.52, 原0.16 長軸0.41, 短軸0.25, 同0.15 長0.52, 原0.18 長軸0.52, 原0.18 長極0.57, 現径0.40, 同0.30 長径0.57, 現径0.40, 同0.30 長径0.44, 原 長柱0.44, 原 長柱0.44, 原 長柱0.44, 原 長柱0.45, 原 長柱0.	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
## 25 A3 下層 ま 不明 ## 25 M2	(第0.20 (第0.08) 期極(m) (20.39 (20.11) (20.45 (20.47) (20.47) (20.47) (20.47) (20.47) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.49) (20.40) (20.48) (20.49) (20.4	造器に石 底部に石	DIAY.	793, A3 794, A3 795, A3 796, X5 797, A3 800, A3 801, A3 802, A3 803, A3 804, A3 805, A3 806, A3 806, A3 807, A2 808, A3 809, A3 801, A3 801, A3 802, A3 803, A3 804, A3 805, A3 806, A3 807, A2 808, A3 809, A3 800, A3 800, A3 800, A3 800, A3 800	上海 4-2 不整円形	為韓0.38, 短軸0.340, 高(0.30) 奏径0.28)、现存(0.20)、同0.24 核(0.26)、两0.14 長軸0.30。短軸一、同(0.10) 径0.52。原0.10 麦軸0.31,原軸0.15。同0.15 麦轴0.52,同0.18 麦軸0.52,同0.19 麦轴0.52,同0.19 麦轴0.52,现60.10 麦轴0.41,第一 麦轴0.52,现60.10 麦轴0.41,第一 麦轴0.32,现60.10 麦轴0.34,后0.10 麦格0.32,原0.14 麦径0.47、短径0.28。原一 经0.32。原0.16 麦格0.34、短轴0.28。原一 径0.35。原一 经0.35。原一 经0.35。原一 经0.35,原一 条轴0.34,短轴0.25。同0.15 麦轴0.34,短轴0.25。同0.15 麦轴0.34,短轴0.20。同0.15 麦轴0.34,短40.20。同0.15 麦轴0.34,短40.20。同0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
255 A3 下層 2 不明 2 2 2 2 2 2 3 2 3 2 3 4 2 3 2 3 5 2 3 2 3 701 A3 1 8 8 188 702 A3 1 8 5 10 704 A3 1 8 5 10 705 A3 1 8 5 10 706 A3 1 8 5 10 707 A3 1 8 7 10 708 A2 1 8 7 10 709 A3 1 8 7 10 709 A3 1 8 7 10 710 A3 1 8 1 10 711 A3 1 8 1 10 712 A3 1 8 1 1 713 A3 1 8 1 1 714 A3 1 8 1 1 715 A3 1 8 1 1 716 A3 1 8 1 1 717 A5 1 8 1 1 718 A5 1 8 1 719 717 718 718 718 710 717 718 718 718 711 715 718 718 711 711 711 711 712 713 714 715 718 713 714 715 718 714 715 718 718 715 717 718 718 717 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718 718	(第0.20 (第0.08) 期極(m)	統領に石 統領に石	100 90	793, A3 794, A3 795, A3 796, X3 797, A3 797, A3 799, A3 799, A3 801, A3 802, A3 803, A3 806, A3 807, A2 808, A3 807, A2 808, A3 809, A3 811, A3 812, A3 812, A3 813, A3	上層 4-2 不整別 上層 4-1 帽内形 上層 4-1 不明 下層 3 不明 下層 3 不明 下層 3 病四 下下下層 一 不明 下層 - 不明内形 下層 - 不明内附 下層 - 不明内内形 下層 - 3 病因形 下層 - 5 病因形 下層 - 5 病因形 下層 - 7 報 日 四 形 形	為韓0.38, 短軸0.340, 26(0.30) 長径(0.28)、題传(0.20)、同0.24 核(0.26)、原0.14 長軸0.30、短軸一。同(0.20) 徒0.52、原0.10 長軸0.41、短軸(0.15)、同0.05 長極0.52、阻軸(0.45)、同0.05 長径0.57、短径0.40 同0.00 長径0.57、短径0.40 同0.00 長径0.44、原2 長軸(0.42)、短袖(0.25)、同0.05 長径0.55、原径0.10 長径0.55、原径0.00 長径0.55、原径0.00 長径0.55、原位0.00 長径0.55、原位0.00 長径0.55、原位0.00 長径0.55、原位0.00 長径0.56、原径0.00 長極0.56、原径0.50。原0.15 長極0.56、原径0.50。原0.15 長極0.55、原径0.50。原0.15 長極0.55、原径0.50。原0.15 長径0.55、原径0.50。原0.15 長径0.55、短径0.50。原0.15 長径0.55、短径0.50。原0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
## 25 A3 下層 2 不明 ## 25 地区 層位 時期 子査等 701 A3 上層 8 円形 702 A3 上層 8 円形 703 A3 上層 5 横円形 704 A3 上層 5 横円形 705 A3 上層 5 横円形 706 A3 上層 5 横円形 707 A3 上層 - 横円形 708 A2 上層 - 横円形 708 A2 上層 - 横円形 710 A3 上層 - 横円形 711 A3 上層 - 横円形 711 A3 上層 - 横円形 713 A3 上層 - 横円形 714 A3 上層 - 横円形 715 A3 上層 - 横円形 716 A3 上層 - 横円形 717 A3 上層 - 1 横円形 718 A3 上層 - 1 横円形 719 A3 上層 - 1 横円形 719 A3 上層 - 1 横円形 711 A3 上層 - 1 横円形 715 A3 上層 - 1 本野 716 A3 上層 - 1 不暇 716 A3 上層 - 1 不暇	(第0.20 (第0.08) 期極(m) (20.39 (20.11) (20.45 (20.47) (20.47) (20.47) (20.47) (20.47) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.48) (20.49) (20.40) (20.48) (20.49) (20.4	統領に石 統領に石	回來	793, A3 794, A3 795, A3 796, X\$ 797, A3 799, A3 799, A3 799, A3 800, A3 800, A3 804, A3 805, A3 806, A3 806, A3 806, A3 807, A2 808, A3 807, A2 808, A3 807, A2 808, A3	上傳 4-2 不整門形 原 4-1 阿形 上	為韓0.38, 短軸0.340, 高(0.30) 奏径0.28)、现存(0.20)、同0.24 核(0.26)、两0.14 長軸0.30。短軸一、同(0.10) 径0.52。原0.10 麦軸0.31,原軸0.15。同0.15 麦轴0.52,同0.18 麦軸0.52,同0.19 麦轴0.52,同0.19 麦轴0.52,现60.10 麦轴0.41,第一 麦轴0.52,现60.10 麦轴0.41,第一 麦轴0.32,现60.10 麦轴0.34,后0.10 麦格0.32,原0.14 麦径0.47、短径0.28。原一 经0.32。原0.16 麦格0.34、短轴0.28。原一 径0.35。原一 经0.35。原一 经0.35。原一 经0.35,原一 条轴0.34,短轴0.25。同0.15 麦轴0.34,短轴0.25。同0.15 麦轴0.34,短轴0.20。同0.15 麦轴0.34,短40.20。同0.15 麦轴0.34,短40.20。同0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
## 25 A3 下層 ま 不明 ## 25 地区 層位 時期 子主称 701 A3 上層 8 円形 702 A9 上層 6 円形 703 A3 上層 5 円形 704 A3 上層 5 円形 705 A3 上層 5 円形 706 A3 上層 5 円形 707 A3 上層 - 楕円形 708 A3 上層 - 楕円形 708 A3 上層 - 楕円形 710 A3 上層 - 楕円形 711 A3 上層 - 楕円形 712 A3 上層 - 1 不輕所 713 A3 上層 +1 不輕 714 A3 上層 +1 不輕 715 A3 上層 +1 不輕 716 A3 上層 +1 不輕 717 A3 上層 +1 不輕 718 A3 上層 +1 不輕 718 A3 上層 +1 不輕 719 A3 上層 +1 不輕	(第0.20 (第0.08) 期極(m) [20.38, [20.11) [20.45, [20.11] [20.45, [20.11] [20.45, [20.11] [20.40, [20.10] [20.11] [20.40, [20.10] [20.41] [20.	統領に石 統領に石	int als	793, A3 794, A3 795, A3 796, X5 797, A3 799, A3 800, A3 801, A3 802, A3 803, A3 805, A3 806, A3 806, A3 806, A3 807, A2 808, A3 807, A2 808, A3 807, A2 808, A3 807, A2 808, A3 807, A	上海 4-2 不整円形	為 韓0.38, 短軸0.340, 26(0.30) 長径(0.28)、 題传(0.20)、 厚0.24 皆(0.26)、 原0.14 長軸0.30、 短軸一。 厚(0.20) 径0.52、 原0.15 長軸0.52、 原0.18 長極0.52、 原0.18 長極0.52、 原0.18 長極0.52、 原0.18 長極0.52、 原0.18 長極0.52、 原0.18 長極0.52、 原0.18 長極0.44、 原軸0.36、 厚0.08 長極0.34、 原軸0.28、 厚0.14 長極0.34、 原軸0.28、 厚0.14 長極0.35、 原径0.38、 厚0.08 長径0.47、 履径0.28、 厚一 径0.38、 優一 径0.38、 優一	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
## 255 A3 下層 ま 不明 ## 255 M2	(第0.20 (第0.08) 期極(m) (20.38 (聚0.11) (20.11) (20.11) (20.45) (20.11	統領に石 統領に石 統領に石	100 pg.	793, A3 794 A3 795 A3 796 XS 797 A3 799 A3 799 A3 799 A3 799 A3 800 A3 801 A3 802 A3 803 A3 804 A3 805 A3 806 A3 807 A2 808 A3 807 A2 808 A3	上傳 4-2 不整用 2 不整円 所形 上	為韓0.38, 短軸0.14人,然(0.30) 長径(0.28)、題传(0.20)、部0.24 核(0.26)、類6.14 長軸0.30、短軸一。部(0.20) 径(0.52、際0.16 長軸0.52、際0.15 長軸0.52、際0.18 長極0.52、際0.18 長極0.52、際0.18 長極0.52、際0.18 長極0.52、際0.18 長極0.52、際0.18 長極0.52、際0.10 長極0.44、標一 長極0.44、標一 長極0.43、原位10 長極0.28、原0.14 長極0.45、際0.10 長極0.28、原0.14 長極0.45、際0.10 長極0.45、際0.10 長極0.45、際0.10 長極0.45、際0.10 長極0.28、原0.15 長極0.55、原径0.15 長極0.55、原径0.15 長極0.55、原径0.15 長極0.55、原径0.50 長極0.75、原位0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
### 255 A3 下層 ま 不明 ### 255 M2	(20.20 (20.08 (20.08 (20.08 (20.08 (20.08 (20.08 (20.01 (統領に石 統領に石 統領に石	SKI-9K	793, A3 794, A3 795, A3 796, X5 797, A3 800, A3 801, A3 802, A3 803, A3 804, A3 805, A3 806, A3 806, A3 807, A2 808, A3 807, A3 808, A3 809, A	上傳 4-2 不整用 2 不整円 所形 上	無 韓0.38, 短軸0.140, 26(0.30) 長径(0.28)、題传(0.20)、同0.24 核(0.28)、題传(0.20)、同0.24 核(0.28)、原0.10 長軸0.30、短軸一。同(0.20) 徒0.52、原0.10 長極0.52、見動(0.18) 長極0.52、見動(0.45)。同0.05 長径0.57、現在0.40。同0.05 長径0.57、現在0.40。同0.05 長径0.44、原 長極0.44、原 長極0.44、原 長極0.44、原 長極0.34、原 長極0.35、原 長極0.35、原 長極0.35、原 長極0.35、原 長極0.35、原 長極0.36、原 長極0.36、原 長極0.36、原 長極0.36、原 長極0.37、短軸0.29、同0.13 長極0.36、原 長極0.36、原 長極0.37、短軸0.36、同0.15 長極0.38、原 長極0.38、原 長極0.38、原 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長径0.50、居 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
## 25 A3 下層 ま 不明 注 注 注 注 注 注 注 注 注	(第0.20 (第0.08) 期極(m) [20.38 (平0.11) [20.45 (平0.47) [20.45 (平0.47) [20.40)	統領に石 統領に石 統領に石	isti ye	793, A3 794, A3 795, A3 796, X3 797, A3 799, A3 799, A3 799, A3 799, A3 800, A3 801, A3 803, A3 804, A3 805, A3 806, A5 807, A2 808, A3 809, A	上海 4-2 不整円 2 不要円 2 不可用 5 3 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	無韓0.38, 短軸0.340, 図(0.30) 長径(0.28)、題传(0.20)、同0.24 皆(0.26)、原0.14 長軸0.30、短軸一。同(0.20) 径0.52、原0.16 長軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.53、原0.10 長径0.44、原 長程0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.55、原径0.26、原0.10 長径0.38、成 長径0.38、成 長径0.70、原0.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.25、原0.10 長径0.25、原位10.20	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
# 25 A3 下層 2 下明	(第0.20 (第0.08) 期極(m) (20.38 (第0.11) (20.11) (20.45) (20.11	統領に石 統領に石 統領に石	90.90	793, A3 794, A3 795, A3 796, X\$ 797, A3 800, A	上	鼻輪0.38, 短軸0.140, 高(0.30) 鼻輪0.38, 短軸0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 原0.10 爰軸0.30, 短軸 同(0.10) 長軸0.341, 短軸0.351, 同0.09 長極0.52, 短睫h(0.45), 同0.39 長極0.52, 现由h(0.201, 同0.31 長極0.44, 探一 長極0.44, 探一 長極0.44, 原他0.28, 同0.34 情(0.32, 深0.10 長極0.34, 短軸0.28, 同0.14 長極0.44, 短卷0.28, 同一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是每0.353, 现年0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.25, 同0.15 長極0.25, 同0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
## 255 A3 下層 2 不明 ## 255 M2	(第0.20 (第0.08) 期間(m) (第0.38 (第0.11) (图0.38 (第0.11) (图0.39 (第0.11) (图0.11)	統領に石 統領に石 統領に石	回攻	793, A3 794, A3 795, A3 796, X\$ 797, A3 800, A	上	無韓0.38, 短軸0.340, 図(0.30) 長径(0.28)、題传(0.20)、同0.24 皆(0.26)、原0.14 長軸0.30、短軸一。同(0.20) 径0.52、原0.16 長軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.52、原0.18 反軸0.53、原0.10 長径0.44、原 長程0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.45、原0.10 長径0.55、原径0.26、原0.10 長径0.38、成 長径0.38、成 長径0.70、原0.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.70、原位10.10 長径0.25、原0.10 長径0.25、原位10.20	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
# 1	(20.20 (20.08 (統領に石 統領に石 統領に石	(30) type	793, A3 794, A3 795, A3 796, X\$ 797, A3 800, A	上	鼻輪0.38, 短軸0.140, 高(0.30) 鼻輪0.38, 短軸0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 原0.10 爰軸0.30, 短軸 同(0.10) 長軸0.341, 短軸0.351, 同0.09 長極0.52, 短睫h(0.45), 同0.39 長極0.52, 现由h(0.201, 同0.31 長極0.44, 探一 長極0.44, 探一 長極0.44, 原他0.28, 同0.34 情(0.32, 深0.10 長極0.34, 短軸0.28, 同0.14 長極0.44, 短卷0.28, 同一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是每0.353, 现年0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.25, 同0.15 長極0.25, 同0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
# 1	(20.20 (20.08 (統領に石 統領に石 統領に石	100.00	793, A3 794, A3 795, A3 796, X\$ 797, A3 800, A	上	鼻輪0.38, 短軸0.140, 高(0.30) 鼻輪0.38, 短軸0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 原0.10 爰軸0.30, 短軸 同(0.10) 長軸0.341, 短軸0.351, 同0.09 長極0.52, 短睫h(0.45), 同0.39 長極0.52, 现由h(0.201, 同0.31 長極0.44, 探一 長極0.44, 探一 長極0.44, 原他0.28, 同0.34 情(0.32, 深0.10 長極0.34, 短軸0.28, 同0.14 長極0.44, 短卷0.28, 同一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是每0.353, 现年0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.25, 同0.15 長極0.25, 同0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	
# 25 A2 下層 2 不明 # 35 A2 下層 2 不明 # 36 PEX	(20.20 (20.08 (統領に石 統領に石 統領に石	30.9K	793, A3 794, A3 795, A3 796, X\$ 797, A3 800, A	上	鼻輪0.38, 短軸0.140, 高(0.30) 鼻輪0.38, 短軸0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 随传(0.201, 同0.24 情(0.28), 原0.10 爰軸0.30, 短軸 同(0.10) 長軸0.341, 短軸0.351, 同0.09 長極0.52, 短睫h(0.45), 同0.39 長極0.52, 现由h(0.201, 同0.31 長極0.44, 探一 長極0.44, 探一 長極0.44, 原他0.28, 同0.34 情(0.32, 深0.10 長極0.34, 短軸0.28, 同0.14 長極0.44, 短卷0.28, 同一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是極0.35, 深一 是每0.353, 现年0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.353, 短棒0.26, 闭0.15 長極0.25, 同0.15 長極0.25, 同0.15	佐那に石 佐部に石 在部に石 底部に石	

第3表 遺構表

遊構服化	地区	105	縄文土器	生土	土師器	院進土器	85	灰粒陶器	山茶碗(南稻茶)	山茶碗(北部茶)	常滑	古瀬戸	大艦	古瀬戸~大窯	かわらけ(岐国)	5 1 1	改姓克	土塊		自自	DE SA	の他中	胸部は	世典社	の他期	品	30	金製品	92	202	木製品	10	計	遺構屬位
SE5		4-1	6		32	+-	10	-	6			5	-	-	114	1	ļ	53		1		П	1			F				-	19	+	-	9 SE5
SD61	A3	_		Н	229	-	29	6	24	9	3	9	9	28	251	-	1	16	+	2 2		Н	+	1 18	-	H	17	Н	2	1	+		-	3 SD8 9 SD61
SD62	A3	_	-	Н	. 3	-	-	1	*1		- 1	1	-	2	7	-	+		+	H	H	Н	+	+	1		-	Н		+	+	+	-	7 SD62
5D63	A3	_		Н	-			1				-			- 1		+	2	+	1	H	Н	1	+	-			Н		+	+	+	-	3 SD63
SD64	A3	-		Н	14		3		4	- 1		2		4	19		1	-1		1		П	1	13	1		\vdash		П		+		-	SD64
SD8+64	A3			П	1	П					1		1				T			T				Т	T	T	Т	П		П				3 SD8-64
SD64 · SK39	A3	-					1										T	2			Г					Г								3 SD64 · SK39
SD65	A3	2			16		- 1	1	3							77				Ι													1	7 SD65
SD66	A3	3			21		.8	4	14	1				-													1					1	- 5	0 SD66
SD68	A3	_			1											14	1									L								20000
SD69	A3	-															4			1	-	Ш	1	1		L						1	-	5D69
SD70	A3	-		Н		-										4	+			+	-	Н	-	+	-	+	-	_		4	1	-	-	0 SD70
SD71	All	-	H	Н			- 1									-	4	-	-	+	H		+	+	₩	H	-			-	+	1	-	1 SD71
SK32	A3	_				-						-			_	-	+	-	+	+	-	H	+	+	-	+	-			-	-	-	_	0 SK32
SK33	A3	_	H		-	+								-1		+	+		+	1	+	H	+	+	+	H	-			-	+	+	_	1 SK33
SK34 SK35	A3	-		H	2	-	1								-	+	+		+	+	-	H	+	+	-	+	-	H		-	+	+	+-	0 SK34 3 SK35
SK35	A3	_			. 2	-	2	-		-	H	-			1	+	+	-	+	+	+	H	+	+	-	+	-		H	-	+	+	-	5 SK36
5K37上版		4-1	-		24	+	7	-	2	4		14	3	10	442	6	3	411		1 1	-	1		2	-	7	43		1	+	+	22	-	4 5K37_EM
SK37下版	-	4-1	-		43	-	9	-	6		-	2	-	1	160	-	-	2	\rightarrow		-	-	+	-	+	1	9	-	-	3	+	1	-	1 SK37下層
SK38	-	4-1	-		11	+	1	-	2	_		4		3	252	-	-	5		+	+	\vdash	+	1	+	3	+	-	-	2	+	22	-	1 SK38
SK38+64	-	4-1	-	Н	1	-			_			-		-	10	-	+	-	+	۰	H	Н	+	+	+	Ť						+	-	8 SK38+64
SK39	-	4-1	-	П	3	-							1	2	6	-	Ť		\top	t	t		†	+	$^{+}$	t		Н		1	+	t	-	3 SK39
SK40	-	4-1	-		13		5	4				7	2	11	180	2	2					П		1		2	24		1			11	-	4 SK40
SK41	A3	4-1		П	- 3		2									T	Ť		Т	T	Т		T			T					T	T		5 SK41
SK42	A3	4-1			28		10		2			2		6	187	29	3	11								1	17					8	30	4 SK42
SK43	A3	-															T							Т										5K43
SK44	A3	-																		Ι														0 SK44
SK45	A3	-																																0 SK45
5K46	A3	-															1				L													5K46
SK47	A3	_															1			1				1		L							-	0 SK47
SK48	A3	_													2		4		4	1			4	+		L				4	1		-	2 SK48
SK49	A3	-	-		- 1	-									- 1	1	+	_	4	+	-	Н	+	-		1	-				+	-	-	2 SK49
SK50	-	4-1		Н	- 1	-	2	-				_		_	- 1	1	+	-	4	+	H	Н	+	+	-	-	+	L		4	+	₽	-	4 SK50
SK51	-	4-1	-	Н	7	+	2	-							2	-	+	-	+	+	H	Н	+	+	⊢	H	-	-	-	-	+	-	-	I SK51
SK52		4-1	-	Н	15	-	2							-	_	-	+		+	+	\vdash	Н	+	+	-	H	-			-	+	-	-	7 SK52
SK53 SK54	A3	Е	-	\vdash	- 11	-	-					-		1		-	+	-	+	+	+	Н	+	+	-	+	\vdash	Н	Н	+	+	+	-	2 SK53 0 SK54
SK55		4-1	-			-	1							-	2	+	+	-	+	+	+	Н	+	+	+	+	+	Н	Н	+	+	+	-	3 SK55
SK56		4-1			8	-	4	-	1			1		_	25	1	+	11	+	+				+	+	H	-			+	+	4	-	1 SK56
SK57	-	4-1	\vdash		6	-	1	-				-			12	1	+	-	+	+	+	\vdash	+	+		t	2	-		+	+	1	-	2 SK57
SK58	_	4-1			10	-	1	-	-1	2	1				2	+	+	t	+		+		+			t	2	-		+	+	1		0 SK58
SK59	-	4-1	-		9	-	2	-	2	- "					6	-	1	-		1	1		1			T	T.					1	-	1 SK59
SK60	-	4-1	-				1	-							2	_	1			T			1	1		T							-	3 SK60
SK61	A3	4-1			13		6		4	1		1			16																	1	4	2 SK61
SK61+64	A3	4-1			- 4										3																	Γ	1	7 SK61+64
SK62	-	3			14	+	-	1	-2																					1			-	1 SK62
SK64	-	4-1			16	-	2	4	1			3			15		5							1			2				1	L	-	7 SK64
SK65	A3	_		П	1		3	- 1	1						- 1																		-	5 SK65
SK66	A3	_													- 1		1			1					-					_			-	0 SK66
SK67	-	3.					1	-									1		4	-				-	1		-				1	-	-	SK67
SX31	A3			28	42	-	45	-	19	3				1	5		+	3		1		Н	-	-	.2		2			1		-	-	5X31
SX31-SD66-SK67	A2	-		Н	.3	-	4	-									+	_	-	-	-	Н	-	+	-	-	-			-	1	-	-	8 SX31 - SD66 - SK67
SX32	-	2	-	Н			3	-							- 04	1	+		+	+	-	H	+	+	-	+	-	-		+	+	-	-	3 SX32
SX33	A3	-	-	H	- 4	-	- 4	-				-		-	3	1	+	-	+	+	\vdash	H	+	+	H	H	-	-		+	+	-	-	SX33
5X34 5X35	A3		-	Н			4								-	-	+		+	+	-	H	+	1		+				-	+	+	-	SX34
P701	A3 A3	-		H	1	-	1								-		+		+	+	-	H	+	-		+	-	H	H	-	+	-	-	SX35
P701 P702	A3			H	5	-	-		1			-		-4	-	-	+	1	+	+	+	H	+	+	+	-	-			+	+	-		7 P702
P702 P703	A3	-		H	1	-			1			-		-1	. 2		+		+	+	+	H	+			-	-			+	+	-	-	7 P702 3 P703
P703 P704	A3	-	-	Н		-			-			1	1		9	-	+	-	+	+	+	H	+	1		-	-			+	+	1	-	P703 P704
P704 P705	A3	-		H	12	-			2			-1	1	2	2	-	+	-	+	+	-	H	+	1 9	-	-			H		+	-8	-	P704 P705
P706	A3	-		H	12	-			- 2					1		1	+	-	+	+	+	H	+		-	-				1	+	-	_	P705 P706
P706 P707	A3	-		H	-3	-			-					- 1	- 1	-	+		+	+	+	H	+	1	-	-	1			+	+	+	_	P706 P707
141	A3		-		-3	-	-	-	_					-	_		4	- 4	-	-	-		-	-	-	-	-						1	P708

第4表 遺物集計表(1)

遺構 層位	地区	時期	調文土器	弥生士器	上師器	機塩土器	領地器	灰釉陶器	山茶碗(南部系)	山茶碗(北部茶)	常滑	古瀬戸	大架	古瀬戸~大窯	かわらけ(戦国)	かわらけ(鋳造)	鋳造関連遺物	焼土塊	且質土器	中国青雄	中国白磁	16	中が世中国政路	至 世 世 土	近世陶磁器	その他陶磁器	州製品	鉄製品	金製品	土製品	6 N. S.	不製品	現 6	での也	合計	遺構屬位
7709	A3	_																					1	ŀ							1	1	+	1	0	P709
P710	A3	-		Ш															Ш		4	4	1											1	0	P710
711	A3.		-												- 6	-					4	4	+	-						4		1		1	-	P711
712	A3	_		-		-	. 1	-							10	-	2				-	-	+	+			Н	2			-	-	1			P712
713	A9	-	Н	-	4	-	- 1								3	-		-		Н	+	+	+	+			Н		-		-	-	+	+	_	P713
7714. 2715	A3		-		8				-			Н		-		-	Н	0	-	-	+	-	+	+			H	-	4	4	+	+	+	+	_	P714
716	A3	-	-	-	6		-	-	- 1					-	2	-	Н	2	-	1	+	+	+	+				1	-	-	+	+	+	+	_	P715
7717	A3	_	\mathbb{H}		. 0		-							1	3		Н	- 2			+	+	+	+			1	2	-	-	+	+	+	+		P716
718	A3	_			i			Н			Н					-			Н	\vdash	+	+	+	+			Н	-	Н	-	+	+	+	1	-	P717
719	A3	-	-	+	16		Î								1	-		2		\vdash	+	+	+	+			H		-		+	+	+	1		P718 P719
720	A3.	_	-	+	4	-	-				1				22	-		7	-	\vdash	+	+	+	+				4	+	-	+	+	÷	6		P720
721	A3	_	-								-	Н			1	1	Н	-	1	H	+	+	+	+			Н	-			+	+	+	*	_	P721
722	A3	_	-												5	+	Н	1		\vdash	1	+	+	+			1		Н	1		+	H	3	_	P722
723	A3.	_	-									Н		Н	1	+					+	+	+	+	-		1		H	Ť	1	+	t	-	_	P723
7724	A3	-	-												1	-		1		Н	T						Н		П		1			1	_	P724
725	A3	-						П						П	1	+	1			П	1	1	1						1	1		1	+	1		P725
726	A3	-													1	-				П		1	+								1	1	1	1	_	P726
727	A4	Ξ																				1	1													P727
728	A4	-																					1											1	_	P728
7729	-	4-1			1										3																	1	1	1	_	P729
7730	A3	5			. 2																												T	T	2	P730
2731	A3	5			1						-1																				T		T		2	P731
732	A3	Б																																	0	P732
733	A3	4-2			3		1			-1	-1	2	1		3	1											1	2							15	P733
734	A3	4-1			3		- 1				1	2		1	12													1				1			22	P734
735	A3	4=1					- 1								3			7																	11	P735
736	A3	-																																	- 0	P736
737	A3	5						J.F.	1						- 1																			1	3	P737
P738	A3	-														40																			0	P738
9739	A3	=																								TY									0	P739
P740	A3	-																																	0	P740
7741	EA	-																																	0	P741
P742	-	4-2			2																														2	P742
2743	A3	~			4																						1								-4	P743
P744	A3	_			1												1																		1	P744
P745	A3	-																		Ш		1													0	F745
746	A3:	=																																	0	P746
747	A3	-		-	1					_		-								Н	4	-	+	+					_			4	4	1		P747
748	A3	=		-	1		- 1	-											-		4	4	-	+							4	4	1	1	-	P748
749	A3		Н	-		-	- 1	-				-		_							4		-	+					_	-	Ц	4	-	4	-	P749
750	A3		Н		_		-							-		1		_			4	+	+	+					4	_		-	+	+		P750
751	A3	-		-	_				_			-					Ш			H	4	+	-	+								1	-	1		P751
7752 7753	A3	4-1		1			-					-			-	-		i i	-	H	+	+	+	+								-	+	+		P752
754	-	-			- 1		- 1	-		-	-				- 4	1	-1	- 5	-	H	-	-	+	-			-				-	4	+	1		P753
755	A3 A3				-		1					-		_			H			H	-	+	+	+	-							1	1	1		P754
7756	A3										-				3	-	H		-	H	+	+	+	+		-	-	- 4			4	+	-	+		P755
757	A3			+	3	-			1					1	_	-		-		H	-	-	+	-	-			1	-		-	+	+	1		P756
2758	A3				2	-	1		-4		-		Н	_1	E	-		2	-	H	+	+	+	+		-		1			-	+	+	+		P757
9759	A3	4-1	-		- 4		-	-						-			H	4	-		+	+	+	+				2				+	+	+	_	P758
760	A3	-	-								-						H	_	-		+	+	+	+			-				-	+	+	-		P759
761	A3			+	1									-1	_	-		39		H		+	+					1				+	+	3		P760
762	-	4-7	-		- 1				-		-			- 1	-	-			-		+	+	+	-			-		-			+	+	+	_	P761 P762
763	_	4-1	•	-																	+	-	+	-			-				-	+	+	+		P762 P763
764	A3	-		+												+				H	1	+	+			-						+	+	+		P764
766	A3	-			1																1	+	+									+	+	+		P765
766	A3	_												-					-		+	+	+									+	+	+		P766
767	A3			1																\vdash	+	+	+	1		-						+	+	+	_	P761
768	A3			-	4		-1		2						11			1		H	+	+	+	+		-	1	6		1	-	+	+	1		P768
769	A3		-	+	2	-	-		-					-	4.5			,	-	H	+	+	+	+		-	1	.0		4		+	+	1	_	P768
770	A3			1								1			-			8			+	+	+					9				+	+	1		P770
771	A3.			1								1		1	2	-		9	-	H	1		-	+			-				+	+	+	+		P771
772	A3				1									- 1	-					H		+		+			H				+	+	+	+		P772
773	A3			+	1	-															+	1	+	+							1	+	+	+		P773
774	A3			+	4	+	-	1											-		+	+	+	-	-	-			-		-		-	-		P774

第5表 遺物集計表(2)

遊構 脳位	地区	時期	調文土器	师生士器	土師設	绕塩土器	遊惠器	灰釉陶器	山茶碗 (南部茶)	山茶碗 (北部茶)	依然	古橋戸	大窯	古瀬戸一大窯	かわらけ(戦国)	511	12	统土塊	土	中国等級	日年	0	陶磁	近世土	陶	0	倒製品	你製品	金製品		4 1	木製品	で見せ	会計		連構層位
775	A3	-															İ				T								Ī	1	1				1 P	775
776	-	4-2				2	1					1		-1	8													2		1	1			1	12 P	776
7.77	-	1-2				1											4		4		1									1	1				-	777
776	-	4-1	-					-							3		4			4	+		Ш	Н	4	-	4		4	4	4	1	1		-	778
779.	-	1-2	-	\vdash		3						_			1		+		-	+	+	Н	Н	Н	-	-1	-	-	+	4	4	1	+	-	-	779
780		4-1	-	Н		L		-	-		Н			- 1	10	-	+	-	-	+	+	Н	Н		-	-	4	1	+	+	+	+	+	1	14 P	
782	-	4-1	-	H	_	2	-									1	+	3	+	+	+	+	Н	H		-	+	-	+	+	+	+	+	-	-	781
783	1	4-1	H		-			\vdash							7		+	9	-	+	+	+		H	-		+	-	+	+	+	+	+	-	15 P	783
784	-	4-2	+				1			-					3	-	+			+	+	+	Н		-	-	+		+	+	+	+	+	+	-	784
785	-	4+2	+-			-			1						- 3	-	+			+	t	+		Н			+		+	+	+	+	+	-	-	785
786	-	4-2	+		-	+			-			1			- 9	-	+			+	+	\vdash		H	-		+		+	+	+	+	+	+	-	786
787	-	4-1				2		\vdash	1						i		+	1			+	+					+		+	+	+	+	+	+	-	787
788	-	4-1	1		_	5	1	1	- 1						7	_		1	1	+	+	Н						1	1	+	-		+	-	16 P	
789	-	4-1	1			1	1	-				1	-1	3	34			11	1	1	1	1						1	1	1	1		1	+	59 P	
790	-	4-2		П				-				Ť	2		31	-	1	20		1	T	T						3		1			1	+	58 P	
791		4-1															1	1		1	T			П						1					-	791
792	-	4-2				t						1			-4						T			П								T			-	792
793	A3	4+				ı									t		7				T			П			П		T	7	T				2 P	793
794	. 63	4-1						П							1		T				Т			П					T						1 P	794
795	A3	4-1				П									- 1						Т	T		П			П								1 P	795
797	A3	1							- 1								T				Т								T						2 8	7797
7.98	63	2													- 1																				1 P	798
799	A3	3				ı															1														2 P	799
800	A3	3							1																										2 2	P800
801	A3	3																																	0 P	801
802	A3	-																			1														0 F	802
803	A3	-							-1			1					1				1														1 P	2803
804	A3	-																			1										4				0 P	804
805	A3	-	1			-						Ш					1			1	4								4	4			1		-	2805
BOE	A3	-	1														4			4	1								4	4	4				0 P	2806
807	A3	-						-									4			-	1								4		4	1		_	-	2807
108	A3	-	L			1	-	2		-						-	4			4	+	\perp		ш	Ц			-	4	4	4	4			-	908
809	A3	-	-			+		-			-			_			4			+	+	\vdash	H	Н			-	-	4	4	4	4	-	-	-	809
911	A3	-	₽	Н		1	-	\vdash	-	-	H	Н		_		\vdash	+	-		+	+	+		Н			-	\rightarrow	-	+	4	+	+	-	-	2811
812	A3	-	+		-	+	-	\vdash		-		H			_	\vdash	+			+	+	+		Н	-		-	-	+	+	-		+	-	-	2812
813	-	-	+		-	+	-	Н									+			+	+	+	H	Н	-	-	Н	\rightarrow	+	+	+	1	+	+	-	P813
814	A3	-	H			+	-		-					_	_	\vdash	+	-	Н	+	+	+	Н	Н			-	-	+	+	+	-	+	+	-	P814
815 816	A3	-	+	-		-		-			-				1		+			+	+	+	H			1	-	-	+	-	-	-	+	-	-	9815
817	A3	-	+	+		-	-					-			- 1		+			+	+	-				1		-	+	-	+	+	+	+	-	P816
815	A3	-	+	-	-	+	-	-			-	-					+			+	+	+	H					-	+	+	-	+	1	+	-	P817 P818
819	A3	-	-	-		+									-		1			+	+	+							+	+	1	+	+	+	-	P819
821	A3	-	-	-							-				1		+				+	+								-		+	+	+	-	P921
822	A3	-	1			2									,		+	1		+	+								+	-	-	+	-	-	-	P822
3医1層	1744	1	+	H	4	-	1	1 2	2		3	2		3	62		1	9		+	+	+	-		1	4		2		-	1	+		4 1	-	A3区1層
318 II MI			1	1	43	-	-	4 4	-	-	-	11	_	-		-	2	8	-	4	1			2	14	-	-	7	1		3	1		4-	-	A3区II層
3回1-四編					28		2	-	-	-		1	-		_	-	1	8	\rightarrow		1		F	H	18	-	-	2	1			1	-	-	-	A3区II・田藤
3区田籍					-	2	-	3 3	-	-	-	5	-	-	-	10	T	4	\rightarrow		1			1	2	-		8			2	1		-	-	A3区Ⅲ廢
3区IV贈					- 8	6	+	8 2	17	ŧ				-4		-	đ	2									1	2				T		3 1	90	AS区IV層
は区川一以南						7	-	6 2	-	-		3	2	2	_		T	2	-				F		1	2		2					1	_	-	A3⊠.II~IV₩
4E 1 W						1					1	-			4	-				T	1					2	$\overline{}$								8	A4区1層
4区1万			1 5	2		3			- 1		1			1				3			1				1	-									-	A4区II 樹
下明(遺構?)					2	6		3	1	1	1	1		7	51		1																		92	不明(遺構?)
尼侧						2		I .							2																				5	不明
21-			18	29	173	1 (31	2 57	167	63	19	84	41	220	2823	148	59	676	0	13	7	1 1	0	8	62	16	14	195	0	7	16	23	4 15	1 69	54	MT .
E維告分			-	_		-	-	_		_	-		_	_	_	-			$\overline{}$	_	_	$\overline{}$	-	-	_	_	-	_	$\overline{}$	$\overline{}$		_	_	_	_	既報告分
総会計	_	_	1	44	2500	o ris	576	5 761	4811	1212	nna	200	170	1102	18071	durin -	70	9251	2	BUY C	2/2	01 3		20	190	inc	DA.	270	- 11	445	240	24	6 25	5 640	ma s	ED A BL

第6表 遺物集計表(3)

恒 遺傳・陽位	14.30	20.76	分數・時期		整	17.77		是 (cm		御考
	士節器	高杯	冠折脚高栋	外面 (体)とガキ 信めハケ	(体)横ミガキ	日刊	器高	班生	その他	
A3 5071		杯類	7c後葉~8c代	-	-	-	-	-		
A3 SX33		無台杯	7c後葉~8c代	Economic Control			-	-		
A3 SX34		張	7c後葉~8c前半	(体)平行及多令旗	(体)同心仍当て異旗	-		-		The Periodic April No. (Pl. 10)
A3 SD66 A3 SD66	山茶碗(尾張型)	小里碗	4型式 5型式		-	-	-	5.1		内面底部使用推
A3 SD66	山茶碗(尾張型)	大平鉢	不明			-	-	-		
A3(SK62	山茶碗(尾礁型)	小量	4型式	-	=	~	- 70	(4.9)		内面底部使用痕
A3 5K62	रा अवस	石鎚	43.0	-	-	残長3.2	福1.5			チャート製
A3 SX31	弥生土器	恋	不明	-	=		-	5:0	1 1	Lance Control
A3 SX31	山茶碗(尾張型)		5型式	-	-		-			内面底部使用痕
A3 SX31	山茶碗(尾張型)	部	5型式		-	- 3	-	7.9		内面底部使用旗 次被轄
A3 SD66-SK67-SX31	(破器(中国) 石製品	有鍵	不明			H-2-2	(E1.5	WE0.3	M10	下品石製
A3 P813		抗	-	-	-			.o III.4.		1 (Carles
A4 SES	調文土器	深鉢	(本朝	-	刘線1条	-	-	-		
A4 SE5		S字理	CSI	(ロ)横サデ	(ロ)横ナデ	-	-	-		
A4 SE5	土解器	伊勢型獎	20	(ロ)機ナデ	(ロ)横ハケ	~	-	-		
A4 SE5	須惠器(最内系)	提瓶	60後葉代	(体)到点女	-	-	-	-	順径(15.6)	
A4 SE5 A4 SE5	順惠器(畿內系) 山茶碗(尾張型)	116 46	Br後葉代 6型式	114/79/11/2	-			-	Martin Co. 67	內面底部使用每
A4 SE5	母器(中国)	青龍鏡	不明	_	-	-	-			TT THE ME HIPLE, TO BE
A4 SE5	陶器(古瀬戸)	締結小皿	後Ⅲ期or後Ⅳ期古	(口)死軸	(口)灰釉		=	74		
A4 SE5	陶器(古藏川)	天日茶碗	後IV期新	既轴	鉄轴	-	-	~		
A4 SE5	階語(古湖戸)	天日茶碗	後以期新	蘇	供釉	-	-	-		二次被點
A4 SES	陶器(古瀬戸)	直線大皿	後Ⅳ期新	供釉	鉄箱 鉄箱	(16.6)	-			二次被刺
A4 SES A4 SES	陽器(古瀬戸) 陽器(大窯)	不明 描述	後期 大腐第1段階	野柏	研報 債粒	120.01	-5			
A4 SE5	陶器(大黨)	110 DA 210 BB	大窯第1段階	建設 明拉	200 FE	- 2	-	-		
A4 SE5	陶器(古瀬戸・大駕)	擂鉢	後IV期對or大票第1段階	新糖	錆轴	-	. =	10.0		
A4 SE5	土飾器	部(かわらげ)	B1類	-	(体)描ナゲ	(19.0)	(2.0)	-		口縁部タール底
A4 SE5	土虾器	皿(かわらけ)	B2-a質	(ロ)横ナデ	(体)横ナデ	(10.0)	(2.0)			口縁部タール復
A1 SE5	土師器	型(かわらけ)	B2-a0	(口)概十元	(体)損ナデ	(12.2)	IV av	-		
A4 SE5 A1 SE5	上師器	直(かわらけ)	B2-b扇 B2-b扇		(体)横ナデ (体)横ナデ	(9.0)	(1.6)	-		内面タール推
A4 SE5	土師器	皿(かわらけ)	B2-b類	-	(体)損ナデ	(11.2)	-	- 2		THE THE
A4 SE5	土師粉	皿(かわらけ)	B2-b%	-	(体)損ナデ	(12.6)	(2.2)			
A4 SE5	土師器	皿(かわらけ)	C1類	(体)指頭圧症	一方向ナデ	(8,2)	(1.3)	-		L. Contraction
A4 SES	土師器	皿(かわらけ)	C2類	-	一方向ナデ	7.5	1.4	-		内面弧状腺划
A4 SE5	土所器	皿(かわらけ)	G251	-	一方向ナデ	(7.2)		_		
A4 SE5	土師器	皿(かわらけ)	C2類 C2類	_	本明	(7.5)	(1.5)	-		口縁部タール推
A4 SE5	土師器	血(かわらげ)	C210		一方向十字	7.6			-	日本権利が、一つい対策
A4 SE5	木製品	着火村	-	-	-		0.130			両端部段化
A4 SE5	木製品	署	-	-	7			7 厚の		
A4 SE6	木製品	蟹	-	×	-			5 100		
A4 SES	本製品 本製品	著	5		-			.7 厚0 .6 厚0		
A4 SE5	木製品	-80 -80	-	_	-			6 140		
A4 SE5	木製品	補伽板		-	-			1 107.2.7		サウラ材
A3 SK37下層	灰釉陶器	不明	不明	-	-	-	- 9	-		
AJ 5K37 下層	山茶碗(足張型)	66	6型式	-	-	-	-	-		A TOTAL OF THE PARTY
A3 SK37 下層	山茶碗(東濃型)	69	不明	Tarting and the	-	-	-	-		内面底部使用瓶
A3 SK37 下層 A3 SK37 下層	磁器(古瀬戸)	青磁碗 天日茶碗	B-IV III	線描速弁文 鉄箱	鉄油	-	-	-	_	
A3 5K37 F/W	陶器(大黨)	天日茶株	後IV期新 大窯第1段階	鉄軸	鉄粒	-	-3	-		
A3 5K37 FW	土的节数	囲(かわらけ)	B1類	(口) 機ナデ	(体)接ナデ	-	-	-		
A3 SK37下層	上時間	皿(かわらげ)	BI類	-	(体)植ナデ	(13.0)	-	-		
A3 SK37 FW	土邮票	皿(かわらけ)	B2-a4	(ロ)横ナデ	(底)一方向ナデ	16.0	2.2	-		
A3 SK37 F W	土飾器	皿(かわらけ)	no w	(ロ)様ナデ	(体)横ナデ (体)横ナデ	(10 m)	(1.6)	-		自縁部ケール麻
A3 5K37下晉	土部器	面(かわらけ)	82~sm C2M	(11)/19(1.3	一方向ナデ	(10,0)	(1.3)	-	-	DESCRIPTION OF YES
A3 SK37 F W	上號碧	回(かわらげ)	BIM	-	(体)微ナデ	(10.5)	-	-		師造作業関連通物
14.50		1000	2.27%		- Carl 1	1				内面歓评付着
A R PROPERTY NA	Larys	90 / A. A. C. C. A.	no cas		7200	-				二次被熱による硬化
A3 SK37 FM	土師器	血(かわらげ)	B2-b類		不期	-				納造作英間連遺物 内面鉱溶付着
										二次被熱による硬化
A3 SK37下層	土帥器	回(かわらけ)	C200	-	本明	-	-	-		排造作業間連進物
										内面鉱準付着 二次披熱による硬化
A3:SK37 F順	土製品	F0×	-	-	-0		-	-		内面航降付着
13. 12. 12. 12. 1		12				1.0				胎士に初級多量に開刊
A3 SK37下層	土製品	順子	-	-	-		3 恒軸		VA -00-15	lu-
7 A3 SK37 F 8 A3 SK37 F 8	石製品 石製品	基石		-	3				0.6 重3.4	黑石
A3 SK37 下層	有製品	新石 	-	-	-				0.4 第1.5	M.S
A3 SR37上面	磁器(中国)	育型院	BarCa	-	-	-	-		-	
A3 SK37 EW	磁器(中国)	白磁路	Elli	-	-	11.8		-		
2 A3 SK37 L W	南朝(古瀬戸)	神腰形香炉	後即例如後N別古	鉄箱 (体)下半離星	鉄釉 (体)下半鷹豆	-	-	-		by Charles and the
1 A3 SK37上階	脚腿(古瀬戸)	縁続小皿	後以期新	(口)灰釉	(口)灰釉	9.2	2.5	4,5		内面底部使用值
A3 SK37上版 A3 SK37上版	陶器(古瀬戸)	腰折皿 腿折皿	後IV期新 後IV期新	(口)灰釉	(口)灰軸 灰軸	-	-		径4.7 牌1.0	-
A3 5K37 EM	南部(古和戸)	腰折皿	後Ⅳ期新	灰粒 (体)下半算星	灰釉	-			12.1.7 PF-1.0	
A3 SK37 ± W	(開發(古賴川)	OF THE	後期	鉄箱	飲輸		-	-		
3 A3 SK37 LW	陶器(大氣)	端反血	大寫第1段階	灰軸	灰釉	1	-	-		
9 A3 SK37 LW	神器(大鼎)	導反肌	大黨第1段階	灰釉	灰轴	(11.2)	-	1		
I A3 SK3T上層	障器(大胤)	健康	大黨第1段階	灰釉	灰釉	-	-	-		
1 A3 SK37上版	陶器(古瀬戸·大楽)	不明	不明	鉄制 (底)露星	243年上	-		-		
ni n. o. Wilson E. sur	上師器	皿(かわらけ)	B2-n類	(ロ)横ナデ	(体)概十三	(11.5)	24.44			
2 A3 5K37 L W	土師器	皿(かわらけ)	B2-6類 B2-6類	-	(体)横ナデ 不明	(8.9)	(1.9)	-		誘恐作業間連續於
3 A3 SK37上層	Things	and a section	DZ UM		1.01	(8.9)				的面配洋社會
					1.0					二次接熱による硬化
A3 SK37上版 A3 SK37上版		Annual Control								
3 A3 SK27上層	土師器	重(かわらげ)	В2-ьта	-	(体)横寸于	7-	-	-		納迪作業関連遺物
A3 SK37上版 A3 SK37上版	王師響	重(かわらけ)	В2-ыш	-	(体)横示于		7	-		内面蛇漆付着
A3 SK37上版 A3 SK37上版 A3 SK37上版			В2-ьда		(体)模士学	40 M. I		1.3.10		内面鉱準付着 二次被熱による硬化
A3 SK37上版 A3 SK37上版	上頭器 上製品 鉄製品	車(かわらけ) 大型士製品 釘	В2-ьщ	-	(体)模すず			11.3 IV	1.1	内面蛇漆付着

第7表 遺物観察表(1)

報	M. or - 46/27	(LATE)	3948	分類・時期	外面	内面	口径		直径	その他	債考
	SK64 SK64	土類品	無(かわらけ)	C2類	-	不明	(6.4)		-		內面鉱準付着
											胎士に初設混和
	3 SK64	土製品	何《把事?			-	-				外面鉱淬、自然箱付着
	SK64 SK61	木製品 土師器	着火材 皿(かわらけ)	C2類	-	一方向ナデ	残長6.3	(1.5)	14.1.1		始部にダール付着
	5K61	土部設	皿(かわらけ)	C2M	-	一方向ナデ	(8.5)	(1.4)	-		
	5K38	陶器(古順戸)	糠翰小皿	後世期or後IV期古	(口)灰釉	(口)灰釉	-	~	~		
	5 K38	陶器(古順門)	性の	後以期新	(4代 年) (5) (4)	対抗	(29.6)	-	-		
	SK38 SK38	陶器(古都戸) 陶器(古瀬戸)	情終 近如or版類	後IV期新 後IV期	CBID EX FIG.	全務 彩色 全数 彩色	(31.2)	_	-		
	5K38	土蘇聯	重かわらけ	B1類	(ロ)様ナデ	/(体)横ナデ	(15.0)	-	_		
	SK38	士師器	無(かわらけ)	C2類	-	一方向ナデ	8.0	1.3	-		口論記タール復
	-		直(かわらげ)	now		+=+4	47.0	77.41			内面能扶幕刻
	SK38 SK38	土師器	(単位(かわらげ)	C2類 C2類		一方向ナデ	(7.3)	1.1	-		口縁部タール推
	SK38	土班部	重(かわらげ)	82-8類	(ロ)様ナデ	(体)様ナデ	(12,5)	-	-	-	調造作業間逐遺物
1	1	200				1000	33415		1 6		內面氣降付着
F A	virting.	土師器	W15-4-7-143	B2-b類	-	(体)様ナデ	70.63	(1.8)			二次被熱による硬化
O A	3 SK38	T-00 88	担かわけ)	D2-DM		(14-)4N 2 3	(9,6)	71.01			鋳造作業関連遺結 内面鉱準付着
											二次被熱による硬化
6 A	3 SK38	土的市場	皿(かわらけ)	82-6類	-	不明	-	-	-		轉造作業関連遺物
											内面鉱準付着 二次被熱による硬化
7 A3	3 SK38	土 6年89	皿(かわらげ)	B2-b類	-	不明	(10.0)	_	-		飾造作業関連遺物
10	111100	-0.5m	mint ar area	FE . 500			0.00				二次被熱による硬化
8 A:	3 SK38	土師器	進(かわらけ)	C2類	-	不明	7.3	1.3	-		蔣造作栗関連遺物
0 0	8K36	士献品	hill-oc	_	-	-	(9.0)				二次被熱による一部硬化 内面、外面口縁部鉱漳付
100	a 105-30	T 9900	C.C.				(9,0)				胎士に規設多量に混和
) A	3 SK38	主製品	1.9<	-	-	-	(9.9)	-	-		內面氣岸付着
	100		100				1.00				胎士に和数多量に提和
	3 57(38	主製品	かんの独立	=	-	-	理長3.		.6)		外面调影鉱港付着
	3 SK38	主製品	を行うの当日	-		-	度長3.0				W. C.
	5K38 5K39	石製品 陶器(大魔)	多石 天日茶碗(加工円盤)	+00100	領珀	長輪	2/101.0	3 353.86		0.4 重1.7 存4.2 厚1.0	施 右
	3 SK39	石製品	型型 (WITLD)	人無徳188周	PRINT.	PORT .	残長9.5	6E3			使用面4面
	3 SK40	磁器(中国)	青苣碗(加工円盤)	B-IV類	-	~	-	-	-	極6.0 摩2.8	
	3 SK40	開發(古瀬戸)	口広有耳盘	後Ⅲ期or後IV期古	鉄輪	(口)跌箱	(12.3)	-	-	肩胛径(16.0)	
	SK40	南路(古瀬戸)	計画 事	後IV期新	98 9 市	銷袖		-	-		二次被熱
	3 SK40	陶器(古種戸)	天日茶碗	後以斯斯	数粒	統制	1 -				
	3 SK40 3 SK40	陶器(古順戸) 陶器(大窯)	花生け	後IV期 大窯第1段階	鉄箱	鉄釉	10.6	-	-		二次被熱
	3 5K40	土師器	皿(かわらけ)	B1類	971 761	(休)横ナデ	(8.7)				10/18/m1
	3 SK40	土師器	皿(かわらげ)	B2-b類	-	(底)一方向ナデ	(9.3)	(1.7)			
1					12	(体)横ナデ	1 2 3	7-113			
	3 SK40	土師器	皿(かわらけ)	B2-b1	-	(体)横十デ	(9.6)	(1:4)			
	3 SK40	土面設	皿(かわらけ)	C2版	-	一方向ナデ	(6,8)				
	1)SK40 1)SK40	士製品	意かわらけ) 男子	C2額		不明	(7.6)				
	3 5K40	武製品 鉄製品	#I	-	12.	-	现長4.				
	3/5K40	供製品	ER .	-	-	-	(残長3.6				
	3 SK40	土製品	が見?	-	-	-	長(10.4) 4E (9	(3) 摩	4.0	
	1/5K4Z	衛碧(古種所)	開所置	長収集新	灰軸	灰釉	-	-			
	3 SK42	国器(古龍戸) 土部器	展析量(加工円盤)	後IV類新 B2-a額	意 量 (ロ)模ナデ	(体)権ナデ	(11.8)	-	-	程4.4 庫1.0	口縁記タール裏
	3 SK42	土師器	血(かわらげ)	B2-a類	(ロ)横ナデ	(体)機ナデ	(10.8)	(2,5)		-	日藤郎ダール鉄
	3 (SK42	土価級	血(かわちげ)	C299	(H-7)R-7 2	一方向ナデ	(8.3)	5044143	-		T
	3 SK42	土路器	面(かわらけ)	B1類		不明	-	-	1		誘選作業関連遺物 内面自然軸
7 A	3 SK42	土的粉	皿(かわらけ)	B2-b類	-	本明	-	-	1		二次被熱による硬化 铸造作業関連遺物 内面鉱準付着
0 4	2 0000	土飾器	皿(かわらけ)	C010	_	不明					二次被無による硬化
10	3 SK42	1.30-03	mrs 425017	C2類		7.40					鋳造作業関連遺物 二次被無による硬化
	3 SK42	石製品	基 石	7		+				10.5 MI.8	胍石
	3 SK4Z	土製品	をいこの項目	-	-	-	残長5.			-	使用時の状態により3色に
	3 5K42	領製品	發貨(蘇宋通費)	~	-	-	径2.47				-
	3 SK42 3 SK50	個製品 須恵郡(美濃南南)	超減(不明) 發	7c後半~8c前半	(体)学行タタキ疽	(体)関心円当て具	怪2.40	/摩-0.1			
f[Ä	3 5K51	(第三部(美費家衛)	R	9c前葉(屬铵14併行)	-	-	-	-	-	1	
57 A	3 5K56	流声器(美產頭兩)	高杯	70中~接车	1-	=	~	-		脚基包径1.6	
	3 SK\$6 3 SK\$6	陶器(古櫃戸) 土師器	議権小温 温(かわらげ)	後IV期新 B2-b類	(连)費星	(体)横ナデ	(9.3)	(2.0	(4.6)		外国高部系切り低 時造作薬関連進物 内面配準付着 ニを終続による確心
S A	3 SK57	土街器	皿(かわらけ)	C2類	-	不明	78.41	(1.6		1	二次被熱による硬化
	3 P711	上師製	重(かわらけ)	BI類	-	(体)横ケデ		(1.5			
0 4	3 P711	土師伽	血(かわらけ)	C1類	(体)搭頭圧痕	不明	-	-	-		
	3 P712	上師器	血(かわらけ)	B2-b類	-	(体)横ナデ	(9.5)		- "		
	3 P712	土的製	皿(かわらげ)	C2類	_	一方向ナケ	(7.5)	(1.2	5 厚0.	6	
	3 P712 3 P712	鉄製品 士製品	#T		-	-	7,8,58,4.	PRU	3 198.0	-	内面鉱準付着
	3 P712	土製品	NVK	-	-	8	+=				- 1100m1 #12 H
	3 P715	症器(中国)	青磁碗	C類	(口)雷文術	-	-			-	
	3 P716	網製品	裁貨(順元通貨)	-	-	-		2,44 . 0		#0.7	2枚重ね
	Albara	1.450	W-107	WKW WE		1	(十)座	2.52 A	E0.13	M(9.9	
	3 P719	上局器 陶器(常滑)	高杯 更	周折脚高杯? 8型式	-	+	+=				
0 4	3 P720 3 P720	上部20(大/株/	原(かわらげ)	8型式 C2類	-	一方向十字	(7.80	11.4	1		
	3 PT22	土師和	温(かわらげ)	B2-b類	-	(体)献ナデ	(9:1)				口種部タール名
	3 P222	保製品	(年)	-	-	-			W1.1	重30.7	1.000
3 A	3 PT22	土製品	土動	-	-		-				1
	3 PT26	土飾器	集(かわらけ)	152 - a類	(ロ)横ナデ	(体)模ナデ		-	-		
	3 P134	陶器(古献戸)	屋折皿	後Ⅳ朝新	震星	灰釉	700		4.7	7	
5 A				Time 1	Ties:	1-00	d66.0				
5 A	3 P784	石製品	上日	700 14		32.00			1		
5 A 6 A		石製品 土庫器 土製品	上口 原(かわらけ) ふいごの項口	B2-b類	-	水明	残長1	9 怪(4	(6)	-	繼郎鉱灣付着

第8表 遺物観察表(2)

度 20	機類	35 FK	分類:時期	外面	内面	Tries !	级市	量(cm 陈径		接名
A3 P768	網製品	线货(至进元货)	+			超1.52				
A3 1768	土製店	土的	-	+	-				横子様は	
A3 P771	土師題	直はわらけ	B1類	+	(体)模士デ	2-1	- 35	-		
3 A3 P782	土師製	皿(かわらけ)	日1期	(口)債ナデ	(体)横サデ	-	-	-	1	
4 AJ P788	王斯舞	血(かわらけ)	B2-45	(ロ)積ナゲ	(体)機ナデ	(18.6)	2.3			
5 A3 P789	超器(中国)	责盛碗(加工円盤)	BarC類	7-19-19		-	-	-	径5.1 年2.6	見込みに花文のスタンプ
6 A3 P789	(母銀(中国)	協付調	BIR	(口)界線 唐草文	(口)界線		100	-		二次推薦
7 A3 P789	陶器(大量)	超反型	大展第1段階	灰軸	灰釉	-	-	_		
78 A3 P789	土師器	(単(かわらけ)	B2-a類	(ロ)横ナデ	(体)横ナデ		-	_	_	
79 A3 P789	土的有額	皿(かわらけ)	C1類	(体)措頭圧痕	不明	100.40	(2.25)	-		
10 A3 P789	土海器	型(かわらけ)	C25	-	一方向ナデ	(9.0)	(1.4)	-		THE SECRET AND ADDRESS OF THE
31 A3 P789	土修器	皿(かわらけ)	B2-b類		不明	-	-			誘选作業関連遺物 内面鉱溶付着
										二次被馬による硬化
82 A3 P721	士66名	量(かわらげ)	C2類	_	一方面ナデ	7.8	1.4	-		- 95 SACHTON PARTY.
83 A3 PT33	陶殿(古瀬戸)	種が加	後以政策	医酶	灰輪	(10.8)		-		
84 AJ P783	海路(大家)	様反変	大倉第1長籍	交輪	灰輪	110.05	-	_		
S A3 P733	土匪器	量はわらげ)	C2th	50.49	一方向ナデ	(7.2)	(1.3)	-		
86 A3 P760	土粉器	直(かわらけ)	B1類	dec.	(体)横士デ	17-46	(414)			
17 A3 P776	(商器(古瀬戸)	7E 84	後Ⅳ期新	1810	研和		-	-		
88 A2 P780	10 00 35	97	oc.	The same	-	長4.7	eito s	SED 4		
89 AJ P785	上6588	皿(かわらけ)	B2-a類	(口)横ナデ	(体)欄ナデ	(13.6)	THE .	400-1		
90 A3 P786	陶助(古歌戸)	1884	後IV期新	排和	精釉	140.01	-			二次被熱
1 A3 P790	陶器(大窯)	端反皿	大滋第1段階	灰釉	灰釉		-	-		- Deliking
32 A3 P790	土庫器	皿(かわらけ)	B2-b類		不明	(8.6)	(1.8)	-		口縁部タール痕
93 A3 P792	陶器(古瀬戸)	種折型	後IV期新	灰釉 (体)下半露呈	灰軸	10.07	11.00	-		AT ME HOP 24 ME.
94 A3 5D8	山茶碗(車灣型)	E .	不明	a strain and a strain at	-	-	L4	-		
95(A3)SD8	部局(中国)	が直視	不明	(日)三級状	-		1.4	-		
36 A3 SD8	書稿(中国)	青盛枝花里	150後年~160中華	-	(口)從靜文	-	-			
17 A3 508	高額(中国)	白磁車	E群	(高)物地莊實豆	-	-				
88 A3 5D8	期線(古龍戸)	理4		開始	38 F6	-	-	-		
99 A3 SD8	海路(古根戸)	1版94 1版98	後IV開新	18 10	維治			-		二次被納
99 A3 SD8	御路(古郷戸)	海野 天自茶碗(加工円盤)	後以開新	商业	鉄粒		-		径4.6 厚1.4	-918KB
11 A3 SD8	陶器(古瀬戸)	(所)	後以期新	89 91 82 95	鉄釉	1	-	-	150 0 181.4	1
02 A3 SD8	開發(古瀬戸)	不明		灰釉	灰釉	-	-	9.6		
			後期 大羅第1, 2段階	灰釉	灰釉	-		9.6		
23 A2 SD8 24 A3 SD8	陶器(大窯)	血類 端反晶	大編第1,2段階 大編第1段階	灰釉	灰釉	-	_	-		-
						-	-	-		
06 A3 SD8	陶器(大麻) 陶器(古藏戸·大葉)	流体	大型第1段階	多种 形 统	婚結	-	_	-		
06 A3 SD8		価体にかわらけ	後IV朝新or大黨第2股階	錆粒	頻粒	THE IN	207.43		-	AND THE REAL PROPERTY.
	土崎縣	Section 2	A20	(ロ)様ナデ	(体)横ナデ	(15.2)	(2.4)	-		内外面体部タール痕
98 A3 SD8	土鉱器	並(かわらげ)	B2-a類	(ロ)様ナデ	(体)様ナデ	710.0	70.00	-		
19 A3 SD8	土防器	温(かわらけ)	B2-6類	-	(氏)一方向ナデ	(12.7)	(2.3)			
10 A3 5D8	+458	重(かわらげ)	B2-b類	-	(体)積ナデ (体)模ナデ	(13.0)	(2.3)		_	
11 A3 SD8	士6529	皿(かわらけ)	C2類	-	一方向ナデ	7.2	1.5			
12 A3 SD8	1.00 89	価(かわらげ)	C255		一方向ナデ	(7.7)				
13 A3 SD8	磁器(肥前)	學付額	19c初頭~幕末頃	文標	WHIT!	14.17	51.47	3.6	期期径5.4	
14 A3 SD8	陶器(連列)	1011	江戸時代後期	鉄釉	鉄釉	-	-	0/0	MARKET A	
15 A3 SD8	(陶器(連門)	6)0	180後半	灰箱	灰釉	-	-			
16 A3 SD8	土製品	1990.	10008-	75.40	107.880	口径(9	45	_	-	內面鉱障付着
17 A3 SD8	石製品	器石						T 0 100	0.6 23.5	風右
16 A3 SD64		天日茶碗	度IV期新	DESIG	飲料	35,802.	3 /F3 FE	1.0 19	U.O BL3-D	We do
19 A3 SD64	陶뭾(古種戸)					-	-	-		
	開始(古藏戸)	排除不明	後Ⅳ期新不明	納地	新姓	-	_	-		
20 A3 SD64	両線(不明)			沢軸	灰軸	-	-	_		75.00
21 A3 P704	陶器(古腹戸)	理師	浸収期新	统	前段		-	-		二次被熱
22 A3 P164	陶器(大家)	層施	大黨第1段階	維格	韓程		_	-		二次被影
23 A3 P704	磁質(配助)	集行機	不明	文學	(口)文框	(16.4)	_	_	-	
24 A3 P708	石製品	不明	-	-	-	長5.5	4篇4.0	摩1.0	孔径0.5	
25 A3 SD61	土師器	皿(かわらけ)	C2額	-	孝明	-	-	-		口縁蛇タール疾
26 A3 P774	灰釉陶器	(5.	虎後山口	THE COLUMN TWO IS NOT	-	-	-	5.4		
27 A3 I	土和和	高杯	有段高杯	(体)ミガキ	-	-	_	~		T- 10
28 A3 I	陶器(古瀬戸)	花瓶	後IV期	鉄軸	鉄釉	-	-	-		二次板熱
29 A3 1	陶器(古廠戸)	天自茶碗	後IV刷新	鉄軸 (体)下部露呈	鉄釉	11.6	-			
30 A3 I	陶器(重男)	口広有耳查	江戸時代後期	灰釉	(口)灰軸	13.2	-	-	-	
31 A3 T	土製品	土明	-	-	-	長4.0	径1.3	孔径0.	6. 残重5.6	
32 A4 I	周醇(素漆)	y.	-		-	-	-	-		
33 A3 II	福祉(中国)	白龍小杯	E群	-	-	357	-	-		W15520
34 A3 II	開發(古種戸)	3234	後Ⅳ照新	游档	HT/B	-	-	-		二次被熱
35 A3 II	陶器(古瀬戸)	排析 基	後以開新	灰釉 (体)王早霖呈	灰釉	(10.6)		-		
96 A3 H	土時期	温(かわらげ)	62-6個	-	(底)一方面 デ	(9.8)	(1.8)	-		
12 12 17	L ARRES	100 CW, 4 - 5 - 440	D21 - 1-95		(体)横サデ	111				14 W. M. M. M. M. M.
37 A3 II	土庫網	直(かわらけ)	B2-b額	Very letter of	(体)横ナデ	(11.0)	-	-		口縁部タール痕
38 A3 II	主師劉	皿(かわらけ)	B2-a類	(口)積イデ	(体)横ナデ	-	-	-		時途作業関連遺物 二次被熱による硬化
39 A3 II	施倡(水角)	8.69	不明	鉄箱	鉄箱	10.01	-	-		一次保証によりまし
40 A3 II	陶器G惠房)	不明	不明	和相 数有益	鉄箱 鉄箱	(8.8)	-	-		
40 A3 II	生製品	Filtre	1/91	87.10	10大程	1	-			内面鉱彈付着
41 /44 H	Takun	140.5	1				-	1		内面監理付着 動土に物数多量に混れ
42 A3 II	士製品	土摊	-	-	-	BAY.	400 V	70 000	5 授重8.5	三山にお成今里に成れ
42 A3 II	土製品	4.7	-						2 ME23	
44 A3 II	土製品	· 計計	-	-	2		4 抵税		280 A	
45 A3 II · III	本線(連房)	不明	不明	DH	供租		_	_		+
		不明 天日茶碗	を引 後IV顕新	飲種	肤相 鉄程	-	_		-	
46 A3 III	陶器(古概戸) 陶器(古順戸)					-	-		1	-
47 A3 III		原折星 ((インオッと・(オ))	後IV期新	灰釉	灰粗	- In C	100	- 1-		
48 A3 III	士師 劉	皿(かけっちけ)	C2類	-	不明		(1.4)		1	100 A (to 100 B) 40 A
49 A3 III	上海市設	皿(かわらけ)	C2類		不明	(7.4)	(1.2)	-		新造作業関連遺物
+										内面鉱滓付着二次被熱による硬化
50 A3 III	土 15品	士帥	-	-	-	WW-2000	2 463		1	一〇個新山山本の秋北
51 A3 IV	土防器	高杯	有段高杯	(体)ミガキ	(体)一部ミガキ	28.00.2.	e Find.	7		_
52 A3 II~IV	土的銀	馬科 S字獎	有取高計 C額	(ロ)横ナデ	(体)一郎ミカキ	-	-	-	-	
58 A3 II ~ IV	土和製	国(かわらけ)	B1類	1	(体)様ナデ	(9:2)	(1.7)			
54 A3 U~IV	土師器	重かわらけ	不明	-	(44)慎ファ	(9:2)	11.0			耳直子
55 A3 II ~ IV	海路(進用)	(重(0*CF517)	17c	D.94	庆 粒	(10.9)		-		787
					鉄粒			-	_	
56 A3 不明(遺積で) 57 A3 不明(遺積で)	階層(古順戸) 土師器	天日茶碗 皿(かわらげ)	後17期新 B1面	網絵 (ロ)値ナギ	(体)様ナデ	-	-	-		_

第9表 遺物観察表(3)

第5章 まとめ

1. 遺構変遷について (第19図)

第3章第2節で述べたが、今回の調査では1期に比定できる遺構は確認できなかった。

2期については、SD65、71、 $SX32\sim35$ を確認した。周辺には本期の遺構は存在しないが、SD65の流路の方向はA1区のSD7と直交する。

3 期については、SD66、SK62、SK65、SK67、SX31を確認した。SD66の流路の方向はA 2 区の SD50とほぼ同一である。

4-1期については、SE 5、SK37~42、50~52、55~61、64を確認した。特にSK37は鋳造作業に関連する遺構である可能性が高い。A 2 区には、砂岩礫・砂・砂質土を突き固めた盛土状遺構SX11があるが、SK37との関連性は不明である。

4-2期については、ビット以外に遺構はなく、また掘立柱建物として認定できるものもない。

5期については、SD8、64を確認した。SD8はA2区で確認した続きであり、また今回の調査成果により、SD64の掘り直しと判断した。

2. 旧地形について

今回の成果を加味し、A6区以西の旧地形について再検討を行う。

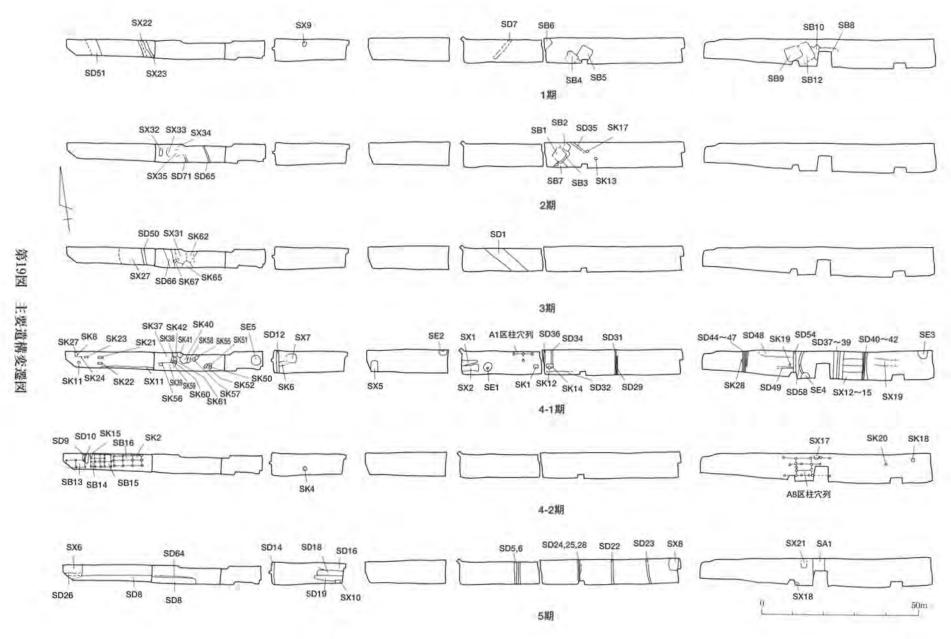
既刊報告書ではA6区付近が地形的に最も高い場所で、これより西ではA5区中央部から急激に下がり、A2区周辺はかなり落ち込んだ場所とした。しかしながら、A4区の土層観察で東下がりの地山の堆積を確認したこと、A3区西半における第Ⅲ層の堆積の状況、A3、A4区に黄色粘質土層が存在した点などから、A5区西半部でいったん地形が落ち込むが、A3、A4区周辺で再び高くなり、A2区周辺で急激に落ち込むという起伏に富んだ地形であったと考えられる。

またA3区西半部で第Ⅲ層を確認し、A6区のSE2などの埋土に焼土や炭が含まれていたことから、後世に削平される以前はA2区からA8区のほぼ全域に第Ⅲ層があったと考えられる。

3. SE 5 10 17

今回A4区で確認したSE5は桶積みの井戸であった。A1区のSE1、A6区のSE2も同じく桶積みの井戸であり、3基とも4-1期に比定している。SE5の最下部には、容器から転用された桶が設置されていたが、SE1も同様の手法で構築されている。桶側板の加工について、SE1の桶側板は、底板が取り付けられる箇所の付近が若干薄く削られるのみであったが、SE5の桶側板は、下端付近の内側が削られて徐々に薄くなり、さらに両角がカットされていた。おそらく職人により製作の手法が違ったのだろう。しかし、桶材は今回のものも含めてすべてサワラであることから、意識的に選択していたと考えられる(第6章第1節参照)。

38 –



4. 土師器皿について (第10、11表)

既刊報告書では、土師器皿について、口縁部が3分の1以上残存しているもの、器高が測定できる ものを対象として、法量と分類の関係を検討した(既刊報告書第5章第3節)。今回の調査で出土した 土師器皿のほとんどが破片であったため、上記の条件を満たすものが数量的に乏しいことから、ここ では分類のみの検討を行う。

今回の調査で出土した土師器皿についてはC2類とB2-b類が特に多く、この傾向は既報告分と同じである。またB2-a類の比率が若干低く見えるが、これについては前述のとおり破片が多いことから、B2-a類と判断できなかったものをB2類の中に含めたためである。

また今回の調査でも、二次被熱して胎土が硬化し内面に鉱滓が付着する、鋳造作業で使用されたと考えられる土師器皿が出土した。付着している金属の成分を分析した結果、青銅や黄銅、銅または鉛、あるいは四分一を扱った可能性があることが分かった(第6章第3節)。黄銅を人為的につくり出せるようになるのは近世に近くなってから、また四分一は近世を代表する合金であることから、今回分析した遺物が戦国時代に形成された遺構や層位から出土したことは注目に値する。分類について既報告分も合わせて検討した結果、C2類とB2-b類が多く使用されていることが判明した。このことから①B2-b類やC2類が多く使用されている時期に鋳造作業が盛んに行われた、②土師器皿の転用についてはある程度の選択性があった、などの可能性が考えられるが、資料数が未だ少量であるため断定するのは困難である。鷺山仙道遺跡を含む鷺山遺跡群では現在も発掘調査が進んでいることから、その成果を待つことにしたい。

	M類	A類	B1類	B2-a類	В2−ь∭	B2-c?類	B類	B2類	C1類	C2類	D1類	体能or不明	計
SE5	0	0	3	5	23	0	1	1	1	32	0	48	114
SK37	0	0	10	6	95	0	6	17	0	152	0	326	612
SK38	0	0	3	6	70	0	8	- 11	0	77	0	156	331
SK40	0	0	6	3	33	0	3	.8	0	46	0	81	180
SK42	0	0	7	3	36	0	0	1	0	43	0	126	216
第Ⅲ層	0	0	6	3	33	0	2	5	0	45	0	102	196
上記以外	0	1	31	18	221	0	21	39	2	335	0	654	1322
計	0	1	66	44	511	0	41	82	3	730	0	1493	2971
既報告分	78	0	219	1541	3226	4	0	.0	0	4750	40	5905	15763
総合計	78	1	285	1585	3737	4	41	82	3	5480	40	7398	18734

第10表 上師器皿の分類別破片数

	M類	A類	B1類	B2-a類	В2-b類	B2-c?類	B類	B2類	C1類	C2類	D1類	体部or不明	計
A3,4区	0	0	6	2	37	0	0	6	0	44	0	53	148
既報告分	0	0	9	83	126	0	0	0	0	142	0	155	515
総合計	0	.0	15	85	163	0	0	6	0	186	0	208	663
比率(%)	0.0	0.0	2.3	12.8	24.6	0.0	0.0	0.9	0.0	28.1	0.0	31.4	100.1

第11表 鋳造作業に関連する土師器皿の分類別破片数

第6章 自然科学分析

第1節 SE5出土桶部材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、戦国時代のSE5から出土した井戸桶の部材1枚の樹種同定結果を報告する。

鷺山仙道遺跡では、A1区からSE1が、A6区からSE2が検出されている ((財)岐阜市教育文化振 興事業団、2002)。これらも戦国時代の結桶積みの井戸で、SE1では1段分19枚と上位段2枚の桶部 材を、SE2は上下2段の桶部材45枚の樹種同定が行なわれ、すべてヒノキ科ヒノキ属のサワラであっ た。

今回の調査で確認したSE5も結桶積みの井戸であったが、調査における安全を最優先し、取り上げ 可能であった1枚について樹種調査を行い、その結果を以下に記す。

2. 方法

桶部材から3方向(横断面・接線断面・放射断面)を見定めて、剃刀を用い各方向の薄い切片を剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクロラールで封入し、永久プレバラート(材組織標本)を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で40~400倍に拡大し観察した。

材組織標本は、パレオ・ラボに保管されている。

3. 結果

SE 5 の桶部材 1 枚は、板目板で樹種はサワラであった。前回調査されたSE 1 とSE 2 に使用されていた樹種と同じであり、井戸桶材としてサワラが選択使用されていたようである。

[樹種記載]

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

サワラ Chamaecyparis pisifera (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科 (図版 8 1a-1c)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材で、晩材部の量は少なく、樹脂細胞は年輪後半に 多い。分野壁孔は同属のヒノキよりやや大型で、孔口は楕円形に大きく開き、孔口の短い幅と壁孔縁 の幅はほぼ同じであり、1分野に2~4個、おもに2個が水平に整然と配列する。孔口の開口はヒノ キより大きい。

サワラはヒノキより分布域は狭くおもな分布域は東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育する。材はヒノキよりやや軽軟で劣るといわれる。

即用を翻

財団法人 岐阜市教育文化振興事業団 2002 『鷺山仙道遺跡-岐阜市鷺山・下土居土地区画態理事業における太平町西郷線建設に伴う緊急発 福岡査-』

第2節 花粉化石群集

新山雅広 (パレオ・ラボ)

1. 試料と方法

花粉化石群集の検討は、戦国時代のSE 5 内埋土より採取された 1 試料について行った。試料は、暗オリーブ灰色~オリーブ灰色の粘性の高い粘土であり、細砂がまじる。

花粉化石の抽出は、試料約4gを10%水酸化カリウム処理(湯煎約15分)による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理(約30分)による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理(氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分)の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離(臭化亜鉛を比重2.1に調整)による有機物の濃集を行った。プレバラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピベットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレバラート全面を走査した。

2. 結果および考察

検討した試料は、粘性の高い粘土であり、水付き堆積物と予想されたが、花粉・胞子化石は全く産出しなかった。花粉化石は水成堆積物であれば、良好に保存されるが、土壌のような酸化条件下では、化学的風化により、分解・消失し、更にバクテリアによる蝕害も受ける。このことから、試料は、少なくとも安定した滞水環境で堆積したものとは考え難い。試料は、井戸埋土より採取されたが、この井戸は常時滞水しているような環境ではなかったと予想される。

第3節 金属用容器類付着物の成分分析

藤根 久 (バレオ・ラボ)

1. はじめに

今回の調査では、金属様物が付着したトリペや土師器皿が出土した。ここでは、これら付着物について、X線分析顕微鏡を用いて付着物の成分分析を行った。

2. 試料と方法

試料は、予めマイクロスコープを用いて写真撮影した(図版9)。試料は、金属付着物が見られる試料6試料である(第12表)。

試料は、主に付着物が見られる容器類の内側を対象として元素マッピング分析を行った。さらに、元素マッピングにより金属元素の輝度が高い位置(従って濃度が高い)についてポイント分析を行った。測定は、傑堀場製作所製X線分析顕微鏡XGT-5000Type II を用いた。元素マッピング分析は、X線導管径 $10 \mu m$ 、電圧50 KV、電流自動設定、測定時間15,000~30,000 secである。ポイント測定は、X線導管径 $10 \mu m$ 、電圧50 KV、電流自動設定、測定時間500 secである。定量計算は、標準試料を用いないFP法(ファンダメンタルパラメータ法)で半定量分析を行った。

3. 結果および考察

図版9に、各試料についての主な元素のマッピング図を示す。

遺物No.63は主に黒色付着物が見られ、一部緑錆も小範囲に見られる土師器皿である。元素マッピング分析では、黒色付着物に対応して銅CuやマンガンMnあるいは鉄Feの輝度が高く検出された。また、底部に近い位置において錫Snの輝度が高い。これら元素の輝度が高い位置でのポイント分析では、銅CuOが最大13.02%、マンガンMnOが最大39.37%、錫SnO $_{z}$ が最大0.21%検出された(第12表)。ただし、鉛は検出されなかった。このことから青銅を扱った土師器皿と推定される。

遺物No.91は赤色物および黒色物が明瞭に付着するトリベである。元素マッピング分析では、赤色付着物に対応して銅CuやカルシウムCaの輝度が高く検出された。また、黒色部分では鉛Pbの輝度が高く検出された。これら元素の輝度が高い位置でのポイント分析では、銅CuOが最大6.06%、鉛PbOが最大20.26%検出された(第12表)。このことから銅や鉛を扱ったトリベと推定される。

遺物No.92は赤色物が明瞭に付着する取手付きトリベである。元素マッピング分析では、赤色付着物に対応して銅CuやカルシウムCaの輝度が高く検出された。これら元素の輝度が高い位置でのポイント分析では、銅CuOが最大5.19%、亜鉛ZnOが最大16.87%、鉛PbOが最大0.26%検出された(第12表)。このことから黄銅を扱った取手付きトリベと推定される。黄銅は俗に真鍮と呼ばれ、人為的に混ぜ合わせて合金をつくり出せるようになるのは、日本では近世に近くなってからである(馬淵ほか、2003)。

遺物No. 110は緑錆あるいは黒色付着物が見られるトリベである。元素マッピング分析では、赤色付着物に対応して銅CuやカルシウムCaの輝度が高く検出された。また、黒色部分に対応して鉛Pbが検出された。これら元素の輝度が高い位置でのポイント分析では、銅CuOが最大81.68%、鉛PbOが最大9.10%検出された(第12表)。このことから銅や鉛を扱ったトリベと推定される。なお、ポイント位置

bにおいて銀 $Ag_{\circ}O$ が0.73%検出されたことから、四分一(しぶいち)を扱った可能性がある。四分一は、銅に銀を四分の一含むことから名づけられ、刀装具や装身具に用いられ、近世を代表する合金である(馬淵ほか、前出)。

遺物No.136は釉状のものが付着する土師器皿であるが、一部に黒色物が付着する。元素マッピング 分析では、全体的にカルシウムCaの輝度が高く、鉄Feが部分的に高く検出された。このことから釉薬 の成分が検出されるものの金属については不明である。

遺物No. 249は赤色や赤色の付着物が見られ、一部緑錆が見られる土師器皿である。元素マッピング 分析では、黒色や赤色の付着物に対応して銅CuやカルシウムCaあるいは鉄Feの輝度が高く検出された。また、これに対応して鉛も検出された。これら元素の輝度が高い位置でのポイント分析では、銅 CuOが最大24.08%、鉛PbOが最大0.92%、錫SnO $_z$ が最大0.54%検出された(第12表)。このことから 青銅を扱った土師器皿と推定される。

4. おわりに

鋳造作業に用いられたと考えられるトリベや土師器皿を調べた。その結果、青銅や黄銅、銅または 鉛を扱った遺物であることが分かった。なお、遺物No.110は四分一を扱った可能性を示唆する。

引用文献

馬淵久夫・杉下龍一郎・三輪嘉六・沢田正昭・三浦定俊 2003 『文化財科学の事典』 522 p

遺物	位置	MgO	A1 20 3	S102	Pg05	KyO	Ca0	Ti0g	MnO	Fe ₂ 0 ₃	CuO	Zn0	As ₂ O ₅	Ag ₂ 0	SnO ₂	Pb0	その他	合計
No.	177 (887	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	元素	Dat
	а	0.02	14, 28	33, 32	4.21	1.88	0.71	1.10	22, 46	19, 96	1.46	0.05	-		A 1	0.20	0.36	100.01
63	b	0.00	14.05	29.33	1.58	1-41	0.75	1. 12	39. 37	8. 13	3, 53	0.06	0.12	7	0.01	~	0.55	100.01
03	C	0.00	14.21	19.91	11.28	5, 97	2, 80	1.54	24.61	5.32	13.02	0.06	0.36	+-	0.21	9	0.69	99, 98
	d.	0.34	9.07	22, 20	3, 11	1.30	15.37	1.01	19.12	10,09	10, 33	0.17	4.46	-	2. 18	~	1.26	100.01
	8	0.61	12.87	53.21	0.72	5. 29	7. 87	1.46	0,62	10.04	6.06	0.04	1 5	7	-	0.48	0.73	100.00
91	b	0.72	7.53	31.55	0.93	2.91	2.71	1.16	0.26	47. 12	1.84	0.10		114	~	2.77	0.41	100,01
	C	2,36	9.08	36.25	0.00	4.20	8, 75	1.97	0.99	15.44	0.06	0.04	-	-	-	20.26	0.59	99, 99
92	а	7.52	11.32	39.61	0,00	6.38	5, 13	1.54	0.24	5,99	3.59	16.87	. ~	-	-	0.26	1.56	100.01
92	ъ	0.13	10.55	49.36	1.28	6. 23	6.42	2.05	0.37	10.38	5. 19	5.82	-	14	- 6	0.09	2.13	100,00
	8	0.32	7.13	18.30	2.09	0.41	1.70	0.45	0.33	55, 68	12.49	0.19		1.3-	-	0.54	0.38	100.01
110	b-	0.47	5.04	9.73	0.28	0.15	0.11	0.01	0.00	0.75	81.68	0.00	-1-01	0.73	~	0.90	0.15	100.00
	c	0.02	2.93	7, 65	2.42	0.25	0, 40	0.02	0.10	56. 83	19. 46	0.15	- 8	-	-	9.10	0.68	100.01
136	a	4.94	8.42	26.11	0.41	1.36	5.85	0.96	0.85	50.53	0.05	0.10		J-0	-	1.8	0.43	100, 01
130	b	1.90	15, 53	50.55	0.00	2.26	18.38	1.55	0.86	8, 02	0.02	0.03	- 20	50			0.90	100,00
940	В	0.92	13.33	42.73	0.58	1.98	10.95	1.11	0.31	3. 12	24. 08	-	0.35	18	0.03	0.11	0.39	99, 99
249	ь	2.07	11.26	50. 88	0.68	5. 62	3.56	0.91	0.57	9.33	13. 15	-	0,08	-	0.54	0.92	0.41	99, 98
最	小値	0.00	2.93	7.65	0.00	0.15	0.11	0.01	0.00	0.75	0.02	0,00	0.08	0.73	0.01	0.09	0.15	/
般力	大値	7.52	15.53	53, 21	11.28	6.38	18.38	2.05	39.37	56, 83	81.68	16.87	4.46	0.73	2.18	20.26	2:13	/

第12表 蛍光 X線分析による半定量分析結果

遺物No	種類	出土地点	付着物	対象金属	付随金属
63	土師器皿	SK37下層	黒色発砲質付着	青銅(銅、錫)	ヒ素
91	トリベ	SK64	赤色および黒色物付着	銅、鉛	
92	取手付きトリベ	SK64	赤色物付着	黄銅 (銅、亜鉛)	鉛
110	トリベ	SK38	緑錆および黒色物付着	銅、鉛	銀
136	土師器皿	SK42	黒色物付着	-	
249	土師器皿	第Ⅲ層	緑錆付着	青銅 (銅、鉛、錫)	

第13表 試料の詳細と付着物の種類



A3,4区全景(上方が北)



A 3 区西部 (上方が北)



調査前状況(東から)



表土掘削状況 (東から)



SX31完掘状況 (北から)



SD66完掘状況 (北から)



SK37掘削状況 (南から)



SK37作業状況 (東から)



SK37掘削状況 (南から)



SK37被熱部分断面(北から)



SK37完掘状況 (南から)



SE 5 作業状況 (北西から)



作業状況 (西から)



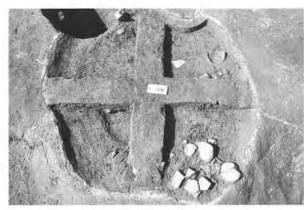
写真測量状況 (東から)



SK64完掘状況 (西から)



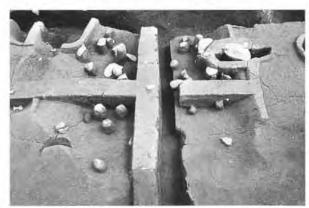
SK61完掘状況 (西から)



SK38掘削状況 (南から)



SK38完掘状況 (南から)



SK40掘削状況 (南から)



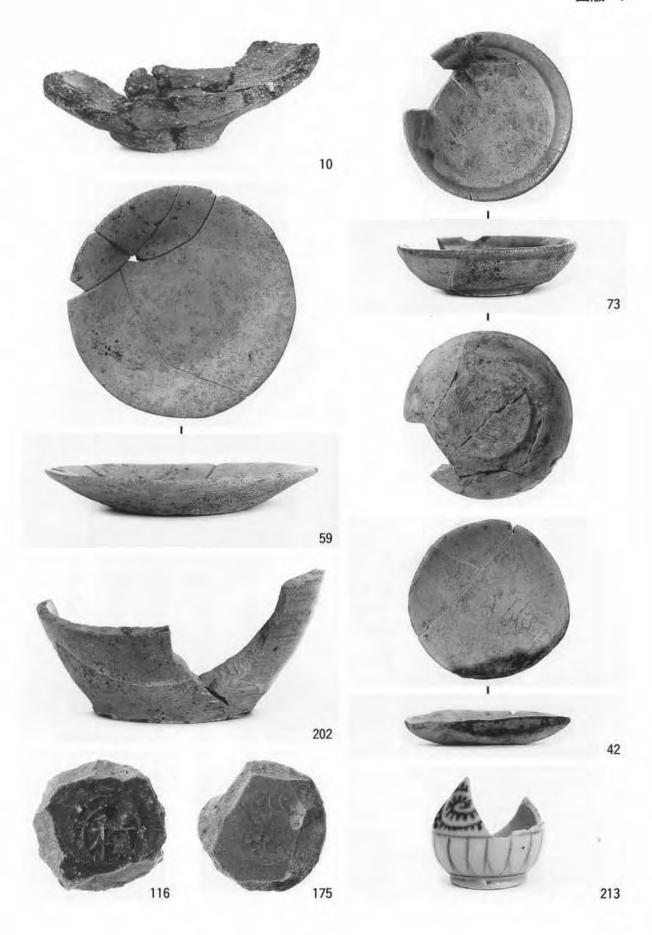
P734上臼出土状況 (南から)



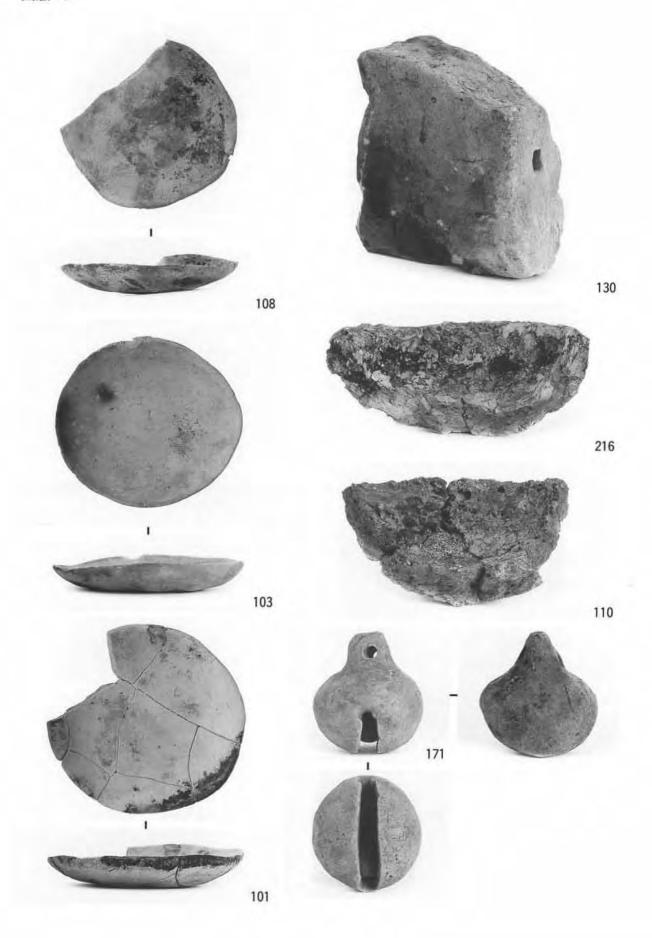
P768土鈴出土状況(南から)

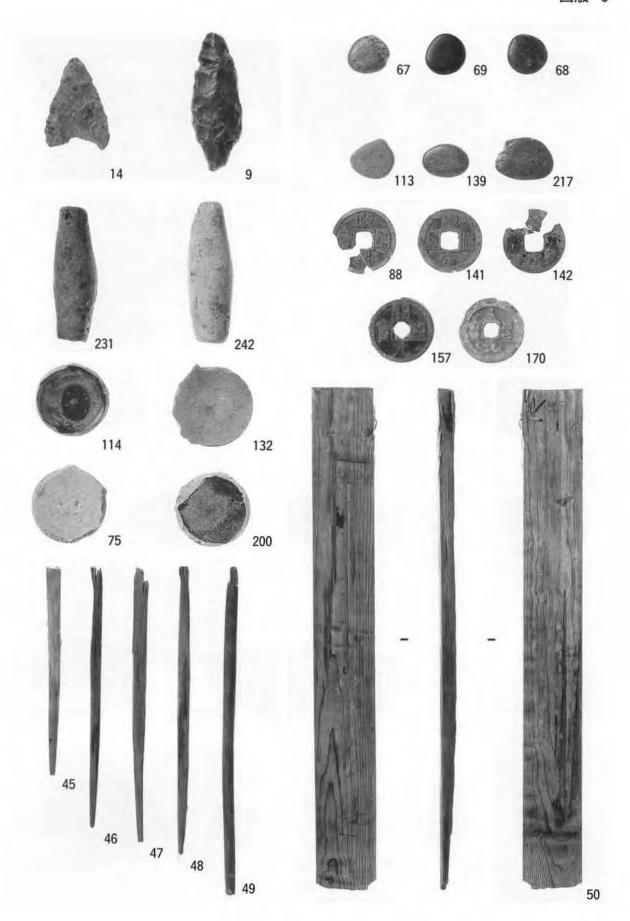


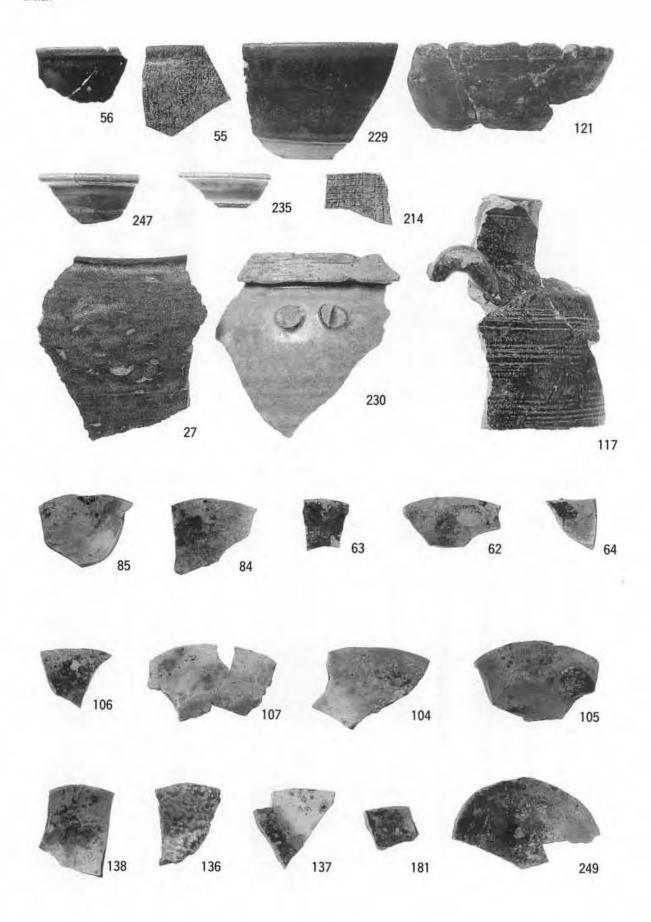
SD 8 作業状況(東から)

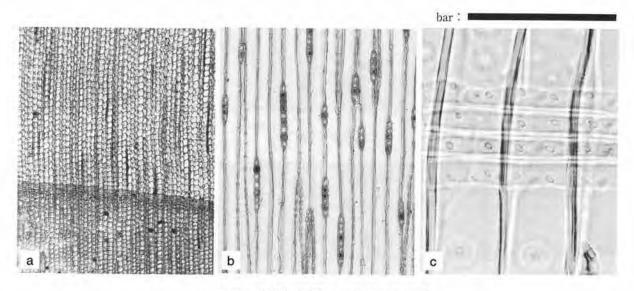


図版 5





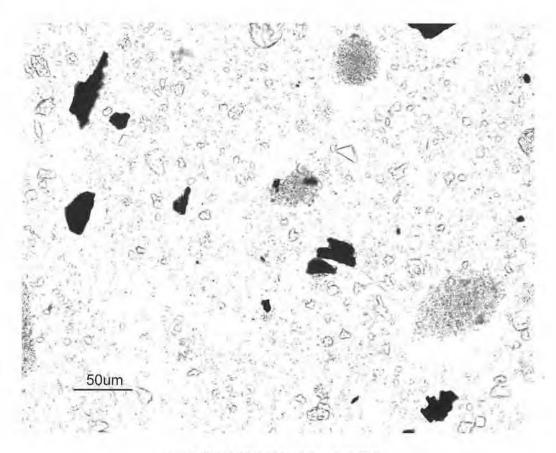




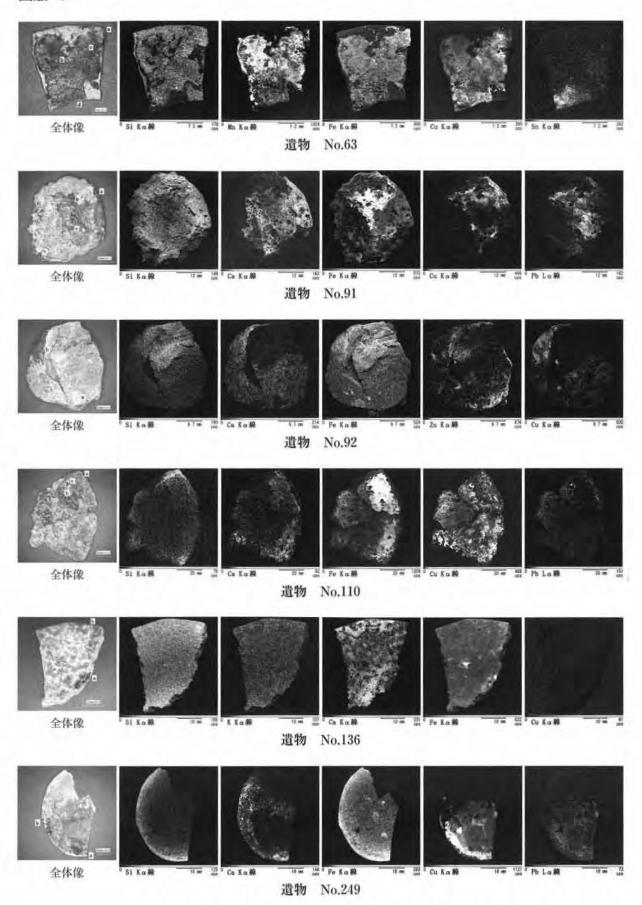
SE 5 出土桶材材組織の光学顕微鏡写真

a-c:サワラ a:横断面 b:接線断面 c:放射断面

bar: a = 1 mm, b = 0.4 mm, c = 0.1 mm



SE 5 採取土壌のプレパラートの状況



主要な元素のマッピング図 (全体像中の赤丸はポイント分析位置を示す)

報告書抄録

フリガナ	サギヤマセンドウイセキ ニ
書 名	鶯山仙道遺跡Ⅱ
副書名	岐阜市鷺山・下土居、土地区画整理事業における太平町・下西郷線に伴う緊急発掘調査
卷次	
シリーズ名	砌岐阜市教育文化振興事業団
シリーズ番号	第13集
編著者名	高木 晃・植田弥生・新山雅弘・藤根 久
編集機関	財団法人 岐阜市教育文化振興事業団
所 在 地	〒500-8245 岐阜市上川手770番地
発行年月日	平成17年3月5日

所収遺跡名	所在地	コード		He 6ds	alcov.	300 -A- 400 mm	調査面積	細木匠田
		市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	(m)	調査原因
籌山仙道遺跡	岐阜市 下土居乙井	21201	G33G08651	35° 26′ 50″	136° 45′ 41″	2004. 5. 28 (2005. 3. 11	210	岐阜市鷺山・ 下土居土地区 画整理に伴う 緊急調査

所収遺跡名	所収遺跡名 主な時代 種類		主な遺構		主な遺物	特記事項
際山仙道遺跡	古墳時代		溝	1	土師器	
	古 代		溝	1	土師器・須恵器	
	中 世		溝 土坑 不明遺構	1 3 1	山茶碗・中国産磁器	
	戦国時代		井戸土坑	1 17	瀬戸美濃産陶器, 中国産磁器,土師器皿, 銭貨,桶,箸,釘,土製品 ,鋳造作業関連遺物	
	近世以降		溝	2	土師器·瀬戸美濃産陶磁器	

鷺山仙道遺跡Ⅱ

一岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線に伴う緊急発掘調査ー

平成17年3月

発行 岐阜市上川手770番地 (附)岐阜市教育文化振興事業団

